

2024年度

事業報告書

社会福祉法人 光友会

— 基本理念 —

障害者には、同世代の健常市民と同様の「当たり前の生活を営む権利」、すなわちあらゆる面での「完全参加と平等」の権利がある。これを保障するためには、全ての面での条件整備が必要である。

— 3つの目標—

- 1 福祉施設にありがちな「隔離と管理」から脱皮するため、職員、利用者、地域住民の意識改革に努めるとともに地域福祉の核機能を果たしてゆく。
- 2 障害者への差別と偏見を除去し、障害者の学習権・労働権・生活権を保障してゆく。
- 3 「平和は福祉の基盤」「福祉は平和のシンボル」であることを身近なところから裏付けし、これを支える福祉運動を推し進めてゆく。

— 5つの展開 —

- 1 本部役員は安定した財政と柔軟な経営、適切なニーズに対応が出来るよう、積極的にその任務を果たす。
- 2 全職員はたゆまぬ研鑽とサービス技術・技能の向上に努め、各事業所内外の期待に応えるとともに、「地域貢献」「困りごとの解決」のために率先して取り組む。
- 3 各事業所利用者は障害に甘えることなく主体的な自主行動を展開し、また、地域在住障害者と共同して生活改善の運動を開花、充実させてゆく。
- 4 行政機関に働きかけ、公私の役割分担を明らかにしながら民間事業所の特色が發揮できるための法的援助体制を確立してゆく。
- 5 障害者差別解消法の施行を受け、一般就労の拡大、地域での「暮らし」の充実、ボランティア活動の土壤を育む。

目 次

I 2024年度事業報告にあたって	1
II 社会福祉事業報告	
法人本部	2
神奈川ワークショップ	7
ライフ湘南	11
寒川事業所	16
湘南希望の郷	20
藤沢サンライズ	24
湘南あっとほーむ・ひだまり	28
在宅支援センター	32
太陽の家運営管理室・体育館	37
太陽の家しいの実学園	40
太陽の家キャロット	44
太陽の家藤の実学園	47
放課後等デイサービス太陽の家	50
いそご地域活動ホームいぶき	53
III 公益事業報告	
総合相談支援センター・湘南台地域包括支援センター	60
障がい福祉センターひかり一時預かり	65
おそごうこころのクリニック	68
IV 収益事業報告	
収益事業部	70
(ハートフルプロダクツ・光友会サポートサービスセンター)	
V 事故報告・リスクマネジメント報告	72

2024年度 事業報告にあたって

理事長 五十嵐 紀子

2024年度の事業報告をまとめるに当たり、事業活動収入の合計が25億円を超えるまでの規模になったことを、まず、ご報告させていただきたいと思います。あと2年で50周年を迎える本法人は、顧みると年間500万円程の収入の小規模作業所から始まりました。職員もわずか4名で10名の利用者さんと共に、点字印刷、テーププリントを主たる作業として開所いたしました。

それから半世紀の間に職員が100倍、事業収入も約400倍以上の規模になりました。

当時、障がい当事者の方々のあらゆる差別が大きかった時代、その解消のために様々な困難がありました。運動・活動を展開しながら事業拡大を実施してまいりましたので、感慨深いものがあります。

さて、2024年度は第一に「おそごうこころのクリニック」が7月に開院することをあげたいと思います。

ベテランの院長を迎えて、順調に診療は推移していますが、通院の交通機関の関係で最寄駅からの送迎を途中から開始しました。また、通院される方々に向けても一休みできる様な環境の整備を検討しています。

第二は、ユニバーサル農園事業についてです。引きこもりの方や地域の方に参加していただいての農作業の実施ですが、これもまた順調に推移しています。近隣の農地をお借りして米づくりを拡大していますが、現在の米の高騰を目の当たりにしているだけに、利用者さんの給食代も含めて効果をあげていると考えております。

その他、久しぶりに開催したお祭りにおいても、障がい者スポーツコーナーを設けて、慶應大学の学生さん達もボランティア参加していただいたり、キッチンカーの参加も得て賑やかに行事ができ、利用者さんも喜んでいました。

グループホーム「ひだまり」においては、入居者さんの初めての看取りを体験させていただき、職員の勉強になると同時に当事者にとっても安らかな眠りにつき、イキイキチャレンジ活動の発表会でも大好評を得ていました。

また、次年度に向けて全員一丸となって、より良い利用者さん支援のために頑張りますので、皆さんの応援をよろしくお願ひいたします。

2024 年度 法人本部事業報告

1 年度総括

2024 年度は、経営協アクションプラン 2025 に従い法人の経営理念、経営方針に沿つて経営、地域社会、福祉人材の 3 つの基本姿勢を中心に業務に取り組みました。

法人内では新型コロナウイルス感染症の分類が 5 類になってはいるものの、引き続き感染防止に努め、場所や時間等を選ばないリモートでの会議や研修等を実施することで、よりスマートに業務を進めることができました。

そのような状況の中、主要業務である理事会、評議員会及び法人内の主要な会議においても円滑に行えるよう、対面・書面・リモートを組み合わせながら適正に遂行することができ、各事業所の執行状況等についても会計業務委託業者と連携し、しっかりと計画的な予算の執行管理ができました。

また、社会福祉法人運営に係わる、職員の最低賃金の改正や、障害福祉サービス等報酬改定に伴う新たな処遇改善加算手当の制度改正など迅速に判断できるよう必要な情報の提供に努めました。

2 事業報告

(1) 経営に対する基本姿勢

- ① 理事会、評議員会で承認が必要な議案や報告については、上程し全て承認をいたしました。また、新型コロナウイルス感染症の分類が 5 類になってはいるものの、引き続き感染防止に努め、会議の開催を対面・書面・リモートを組み合わせながらスムーズな運営に努めました。
- ② 前年同様、月次決算による拠点区分別分析を毎月部長会議で行うとともに、上半期や決算時期に前年対比で黒字の事業所、赤字の事業所において、自己分析をして説明する場を設け、財務状況を身近に感じられるような取り組みを行いました。
- ③ コンプライアンス（法令等遵守）の徹底に取り組むため、ハラスメント研修や虐待防止研修を行い、職員に対し社会的ルールの遵守の普及啓発に努めました。また、最低賃金の改正に伴う給与等の改正及び障害福祉サービス等改定に伴う新たな処遇改善手当制度の給料への配分等のルール化など、社会情勢の変化に対応するため、見直しを図りました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

光友会の魅力等を積極的に情報発信するため、各広報ツールの見直しを検討した。ホームページは利用者がより見やすく、操作性を向上させるよう「事業所ページ」の改修を行いました。毎月の更新件数は 289 件（月平均 24.1 件）と昨年度よ

り 40 件を超え、年間アクセス総数 49,000 件を超え、前年度比 +19%となりました。また、法人プロフィール、LFA の更新を検討するにあたり事業所、編集委員からの意見を集約し、今後も法人の魅力をアピールしてまいります。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

ホームページ求人については、「太陽の家見学会」のお知らせを掲載し、インタビュー記事のうち退職職員分を削除するなどの改修を行いました。改修が未完成の部分もありますが、アクセス数は、前年度 13,280 件から 23,410 件と大幅に増加いたしました。ホームページからの求人申込み 10 件、見学希望 10 件でした。

3 法人研修及び行事実施状況

	研修・行事名	備考
4 月	新任職員研修	20 人（新卒者 8 人、常勤登用者 12 人）
	経営方針研修	年度経営方針については、課長級以上が対象（理事長講話は 5 月までに視聴）
5 月	光友会事業推進協議会総会	推進協代議員総会開催 出席者：58 人（うち委任状の出席 26 人）
6 月	階層別コミュニケーション研修	対象：1 級から課長職（オンライン研修） 受講者：190 人受講
9 月	希望寄席	9 月 20 日（金）湘南台市民シアター 来場者数 520 人
11 月	ふくし村まつり及び運動会	11 月 16 日（土）ワークショップ° 食堂：ミニコンサート お笑いライブ 大抽選会・スピードくじ 駐車場：模擬店・キッチンカー パラスポーツ体験（運動会）
12 月	人権・法令遵守 ハラスメント研修	対象：全職員（非常勤職員も含む） 動画視聴、アンケート調査 受講者：369 人受講
1 月	チャリティーコンサート	1 月 26 日（金）市民会館 大ホール 来場者数 553 人
1 月 ～ 3 月	イキイキチャレンジ活動 発表大会	発表者・審査員対面で発表（8 事業所参加） 撮影した動画をその他職員が視聴し審査 視聴人数：200 人

4 2024 年度資格取得褒賞対象者

資格名称等	取得者数	事業所
介護福祉士	1人	湘南あつとほーむ・ひだまり
社会福祉士	1人	総合相談支援センター
精神保健福祉士	1人	藤の実学園
介護福祉士実務者研修	1人	湘南あつとほーむ・ひだまり
計		4人

5 2024年度評議員会・理事会

(1) 評議員会

開催	主な議案
2024年6月23日	【出席者数：評議員8人 理事8人 監事1人】 2023年度事業報告について 2022年度計算書類・財産目録の承認について 2024年度予算の補正について
2024年9月21日	【出席者数：評議員7人 理事8人 監事2人】 ユニバーサル農園事業の受託について 藤沢市障がい者相談支援事業（発達障がい）の受託について 2024年度予算の補正について
2025年3月22日	【出席者数：評議員8人 理事8人 監事2人】 2024年度予算の補正について 2025年度事業計画（案）及び予算（案）について 理事1名の辞任について

(2) 理事会

開催	主な議案
2024年4月24日	【出席者数：理事9人 監事2人】 定款細則の一部変更について（決議の省略による）
2024年6月7日	【出席者数：理事9人 監事2人】 2023年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について 2024年度予算の補正について 社会福祉法人光友会常勤職員給与規程等の一部改正について 2024年度第1回評議員会の招集について 施設の長他の重要な職員の選任及び解任について

	理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）
2024年9月13日	<p>【出席者数：理事9人 監事1人】</p> <p>ユニバーサル農園事業の受託について</p> <p>藤沢市障がい者相談支援事業（発達障がい）の受託について</p> <p>2024年度予算の補正について</p> <p>施設の長他の重要な職員の選任について</p> <p>経理規程の一部変更について</p> <p>2024年度第2回評議員会の招集について</p> <p>理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）</p>
2024年12月17日	<p>【出席者数：理事9人 監事2人】</p> <p>県指導監査の指摘事項に対する改善報告について</p> <p>太陽の家移動支援事業所の開設について</p> <p>湘南あっとほーむ・ひだまり障害者虐待防止関係の状況報告について</p> <p>理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）</p>
2025年3月7日	<p>【出席者数：理事8人 監事2人】</p> <p>2024年度予算の補正について</p> <p>2025年度事業計画（案）及び予算（案）について</p> <p>評議員選任・解任委員会委員の選任について</p> <p>施設の長他の重要な職員の選解任について</p> <p>役員等賠償責任保険の契約について</p> <p>2024年度第3回評議員会の招集について</p> <p>常勤職員就業規則等の一部改正について</p> <p>非常勤職員給与規程の制定について</p> <p>経理規程の一部改正について</p> <p>育児・介護休業等に関する規程の一部改正について</p> <p>湘南あっとほーむ・ひだまり障害者虐待防止関係の状況報告について</p> <p>理事1名の辞任について</p> <p>理事長及び業務執行理事の職務執行状況について（報告）</p>

(3) 評議員・理事・監事（2025年4月1日現在）

評議員：坂根隆志 竹村雅夫 大島正寿 木原純子 倉持泰雄

杉本和雅 長渕晃二 金子貞廣 小澤幸喜 二見隆江
理 事：五十嵐紀子 落合文雄 栗原ちゆき 吉田淳基 一杉好一
永井洋一 松井正志 片山睦彦
監 事：高橋理一郎 宇久田進治

2024年度 神奈川ワークショップ事業報告

1 年度総括

今年度も法人基本理念を毎朝職員全員で唱和し、福祉サービスの基本を認識し、意識を高めるとともに法人の方針等を職員全員に伝え徹底を図りました。就労支援事業については、サービスの充実を図り、農園事業に力を入れました。また、県の事業を委託受注し現状のかわうそ農園を利用しユニバーサル農園を実施し利用する方も増えてはきましたが、周知などがうまく行き届かず平均で7名の利用がありました。他近隣の田圃も増やし新たな収入も得ることができました。

支援学校から実習生5人、インクルーシブ教育一環で県立茅ヶ崎高等学校より1名、神奈川県社会福祉協議会より教員免許実習生13人名、支援学校1年生・2年生、在宅障害者団体等の見学23件の見学対応を行い、福祉サービス現場に対する理解の向上に努めました。

収益事業部と連携し、ワイン用ブドウ「メイブ」を栽培し、今年度は初のワインの醸造を行い、藤沢ワイン祭りにて販売を行うことができました。

2 実施事業

- (1) 就労移行支援事業
- (2) 就労継続支援A型事業
- (3) 就労継続支援B型(従たる事業所：かわうそ工房・ひかり治療院を含む)

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 利用者に対して、サービス管理者、担当職員・決定を尊重し支援を行うことができました。
 - ② 虐待防止委員会を月1回実施し、全職員(常勤職員・非常勤職員)対象に虐待に対するセルフチェックを2回実施、外部委員を招き虐待防止研修を1回実施し、職員の意識向上に努めました。
 - ③ 提案箱への意見はありませんでした。その理由としては、利用者方に要求事項等ある場合は、直接職員に話せる関係性を作り上げていることから、日常の中でしっかりしたサポートができていると考えます。
 - ④ 防災訓練については2回実施しました。1回目は職員、利用者との全体の訓練を実施し、2回目は職員が藤沢市の防災(大規模)ビデオを視聴しました。
- (2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 実習・見学等の受入を積極的に行う事ができました。(見学者 17件 約100人)。
また、地域でのお祭りやイベントに27件参加する事ができました。
藤沢市役所ロビー販売、わいわい市、湘南スベニールズ、スーパーSUZUKIYA、
やまかストアでの委託販売は、継続して行う事ができました。
- ② かわうそ農園の収穫体験では、就労福祉部のみならず法人内の別の事業所(湘
南希望の郷、リエール、ケアセンター)と連携し、多くの利用者と共に実施でき
ました。
- ③ 近隣の耕作放棄地などを借り上げ「畑」、「田圃」、「ブドウ圃場」など(合計3か
所)を確保、広げることができました
- ④ 地域の農家組合と連携を深めるために定期的に行われる用水路泥上げに職員・
利用者が参加しました。また、定期的に行われる、田圃用の農道整備(草刈り・年
5回)に参加しました。
- ⑤ 地域の拠点神社の宇都母知神社の氏子に登録し、秋の収穫祭に参加して生産物
の販売を行ったほか、行事等のお手伝いも行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 毎日の朝礼等で、法人の事業経営方針(基本理念等)を唱和する取り組みを行
う一方、年度当初に部門統括から目的意識の共有を行い、事業運営の円滑化を図
かる取り組みを行いました。
- ② 今年度入職の職員に対して施設内各部門及び法人内他施設の研修実施し、職員
交流、福祉への理解を深めました。
- ③ SDS(自発的学習)の推進を進め、必要である資格の取得を行うことができま
した。
- ④ ヒヤリハットに関して職員一人2件以上/月の目標達成には至りませんでした。
- ⑤ 部門統括による就労課長職・課長補佐研修を2か月に1度の頻度で実施しまし
た。2024年度は、2023年度実施した研修からハラスマントアンケートを実
施し、職員一人一人の意識向上に勤めました。2024年度については、就労福祉
部各事業所で実施している「業務の振り返りチェックシート」の統一化を図り、20
25年度に実施することといたしました。
- ⑥ 感染予防対策として毎朝、共用部分を次亜塩素酸で消毒を法人本部職員と連携
し実施しました。ワークショップ建物内も業者による除菌・抗菌を行い、給食の2
部制を継続し感染予防に努めました。
- ⑦ 原材料の価格高騰もあり商品の価格を見直す一方、コスト意識を高め無駄を極
力省くための管理運営にあたりました。販売時の会計を緩和するために、レジ等の
導入も検討しました。

※生産活動実績

部 門	売 上	達成率	部 門	売 上	達成率
オフセット印刷	50,918 千円	95%	点字印刷	18,772 千円	93%
製パン	9,597 千円	112%	軽作業	6,918 千円	116%
農作業	770 千円	180%	テーププリント	8,252 千円	138%
かわうそ工房	4,936 千円	113%	ひかり治療院	3,012 千円	90%

4 数値実績

2025年3月31日現在

	就労移行事業	就労支援A型事業	就労支援B型事業
利用定員	6人	10人	60人
利用登録者数	3人	7人	73人
稼働者延数	752人	1589人	1428人
稼働延日数	248日	248日	248日
稼働率	50%	64%	96%
職員数	常勤 10人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤 16人		
常勤換算数	25.1人		

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4月	部門統括による課長職研修	
5月		食事会(キッチンカー)、家族懇談会
6月	部門統括による課長職研修	田植体験
7月		
8月	部門統括による課長職研修	
9月		
10月	部門統括による課長職研修	稲刈り体験
11月		避難訓練
12月	部門統括による課長職研修 虐待研修（外部講師）	収穫祭
1月		
2月	全国セルフセンター長研修会	
3月	部門統括による課長職研修 虐待研修（外部講師） 虐待防止委員会（外部委員）	避難訓練 収穫体験

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考

就労福祉部合同運営会議	毎月 1 回	総合施設長・部門統括・部長 ・課長・課長補佐
就労福祉部部長会議	毎月 1 回	部門統括・部長
職員会議・喫食会議	毎月 1 回	常勤・非常勤職員
個別支援計画書 モニタリング会議	毎月 1 回	常勤・非常勤職員
虐待防止委員会	毎月 1 回	常勤・非常勤職員
施設内研修	年 2 回	常勤・非常勤職員
S BMカンファレンス	毎月 1 回	部長、課長、課長補、会計担当

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024 年度	122 件	0 件
2023 年度	125 件	0 件
2022 年度	104 件	0 件

2024 年度 ライフ湘南事業報告

1 年度総括

地域共生社会（包括的支援体制）の実現を目指す中、近隣自治会・企業・学校、そして行政と連携し、地域イベントや地域交流会等、就労支援事業を通じて地域住民と共に支え合い共に生きる環境の整備に努めました。また、会議室や食堂を開放し、地域サークルのイベントの場、憩いの場として活用していただくことで更に地域住民との連携も深めることができました。

生産面については、新型コロナウィルス感染症も収束したことで受注も増加し、物価高騰の影響から支出の増加が懸念される中、原材料の見直しを行ったことで前年度以上の収益を達成することができ、工賃の向上につながりました。

また、就労福祉部内の協力体制（寒川プロジェクト）による課題解決などに積極的に参画し、一定の成果が得られました。

2 実施事業

- (1) 就労移行支援事業
- (2) 就労継続支援B型事業

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 毎朝礼時に基本理念・3つの目標・5つの展開の唱和を継続するとともに「ライフ湘南職員行動指針」を新たに作成、唱和することで権利擁護・虐待防止に対する意識がより向上しました。
 - ② 虐待防止委員会（身体拘束禁止）の開催とともに「業務の振り返りチェック」を実施し、不適切支援ゼロに向けた職場改善活動を行ったことで虐待・苦情の発生ゼロを達成することができました。
 - ③ 地域スーパーや県立高等学校等、異業種との協働によりチームアプローチを主眼とした利用者支援を遂行できました。また、ハローワークチーム支援連絡会に参加し他機関との連携強化に努めました。
 - ④ 食品部門においては、多種に富んだメロンパンや「豆腐ドーナツまっちゃ味」等、季節に応じた新商品を年間10品目以上提供し、利用者の創造力向上に努めました。
 - ⑤ 就労支援事業所として1人以上の一般企業への就職者を目標に「就労支援プログラム」を毎月4回実施するとともに、毎月のハローワークチーム支援連絡会に参画して情報の収集、他機関との連携強化に努めましたが、最終面接での見送り等、年度内就職者輩出には繋がりませんでした。

- ⑥ 藤沢市障がい者地域生活サポート事業「通所体験事業」を活用し、市内在宅者を対象とした体験通所者を募りましたが利用希望者はありませんでした。
- ⑦ 各種イベントの取り組みについては、新型コロナウィルス感染症も落ち着いたこともあり、「湘南大庭ふるさとまつり」、「藤沢ふれあいフェスタ」等、多種にわたるイベントに参加しサービスの拡充、工賃の向上に努めました。
- ⑧ 夏の暑気払い、年末の忘年会、秋の日帰り旅行等、事業所内各種行事については自治会「フレンズ」と連携し、レクリエーションサービスの充実を図りました。また、事業所設立 20 周年を記念した企画では、ご家族参加型のイベントを開催し、より良好な関係を築き生産サービスへの理解を深めていただく機会としました。
- ⑨ かわうそ農園第 2 圃場において、農福推進室の指導の下、担当職 1 名が週 1 回の作業を実施しました。利用者も協働し、参加することで所管事業所でのブドウ栽培の認知度が高まり、収穫量としては全体の 7%に貢献しワイン約 5 本分のブドウを生産しました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 地域での拡販の取り組みとしては、イトーヨーカドー湘南台店、東邦チタニウム株式会社、慶應義塾大学看護医療学部等への定期的な販売を継続しつつ、新たに地域診療所内販売、早稲田大学稻門会受注等、販路の拡大につなげました。また、東海大学健康学部との連携による地域団地の活性化に向けた朝市に参画し、地域共生の観点から販路拡大と地域課題のニーズに応えました。
- ② 地域行事については、湘南大庭地区社会福祉協議会生活改善部会・大庭と小糸みんなの学校運営協議会・大庭地区ポイ捨て無くし隊・イオン藤沢店イエローレシート店頭活動等に参加し地域の活性化に努めました。
- ③ 地域福祉の困りごとについては、藤沢市地域公益事業推進法人協議会「福祉なんでも相談窓口」遠藤・大庭地区担当として地域相談の窓口的な役割を担いました。
- ④ 法人ホームページにて年間 16 件の事業所情報をアップし、情報発信を行いました。地域サークルへの会議室・食堂の貸し出しは、年間 26 件となり地域の活性化につなげました。
- ⑤ 季節限定の菓子パンや新種類のドーナツを開発し、近隣学校イベント・支援学校見学者等に提供 PR することで認知度や事業所の魅力が向上させることができ、年間 10 名の新規利用者契約につなげることができました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① ヒヤリハットの提出は年間 927 件、1 人あたり月 4 件の提出であり職員の気づき向上から事業所全体の就労サービスにおけるリスク軽減へつながりました。
- ② 各種大学・専門学校から 4 名の実習生を受け入れ、実習の経験を経た生徒 1 名

がライフ湘南の職員として採用されることとなりました。

- ③ 全職員（非常勤職員・K S S 職員含む）と年2回以上の面接を行い職員一人一人の声を抽出しました。業務の振り返りシートについては年2回実施し、人材育成の観点から職員の意識改革、職場改善活動に努めました。
- ④ 職員の専門性向上に向けた研修を受講（県新任職員研修・県虐待防止マネージャー研修等）するとともに事業所独自の研修を年2回（親なきあと勉強会）実施しました。
- ⑥ 部門統括による就労課長職・課長補佐研修を2か月に1度の頻度で実施しました。2024年度は、2023年度実施した研修からハラスメントアンケートを実施し、職員一人一人の意識向上に勤めました。2024年度については、就労福祉部各事業所で実施している「業務の振り返りチェックシート」の統一化を図り、2025年度に実施することと致しました。また、部門統括によるハラスメント研修・課長職研修を実施し、ハラスメント行為から不適切支援、権利侵害につながる危険性を学びました。
- ⑦ 安全衛生面については毎月の就労福祉部安全衛生委員会の情報を職員会議にて共有し、環境整備・防災関係・感染症対策等、職員の安全衛生に対する専門性、意識向上につなげました。

※生産活動実績

部門	売上	目標達成率
軽作業	3,306千円	107%
清掃	7,821千円	87%
豆腐	4,096千円	139%

部門	売上	目標達成率
喫茶	14,977千円	103%
製パン	9,422千円	128%
製麺	5,063千円	113%

4 数値実績

2025年3月31日現在

	就労移行支援事業	就労継続支援B型事業
利用者定員	6人	54人
利用者登録数	2人	67人
利用者延べ数	520人	13,636人
一日平均利用者数	2人	55人
稼働率（%）	33.3%	100%
稼働延日数	249日	
職員数	常勤：12人（管理者・サービス管理責任者含む）	非常勤：9人
常勤換算数	18.4人	

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4月		イオンイエローレシート贈呈式
5月	藤沢市学校教育委員会	家族懇談会
6月	藤沢市進路業務連絡会	
7月	親なきあと勉強会① 外部研修機構 「虐待防止」「身体拘束禁止」「BCP」研修	七夕
8月	大庭地区生活改善委員会	暑気払い
9月	神奈川県知的障害者連合就労実践報告会	
10月	湘南地域就労援助センター事例報告会	避難訓練①
11月	県社協新任職員研修 大庭地区社会福祉協議会障害者基礎研修	健康診断 日帰り旅行(八景島シーパラダイス)
12月	神奈川県知的障害者連合種別全体大会議実践報告	忘年会 ふれあいステージ
1月	神奈川県虐待防止・権利擁護研修	成人のお祝い 湘南大庭地区新春のつどい 藤沢市障がい者お仕事フェア
2月	親なきあと勉強会②	節分・避難訓練② 湘南大庭地区ボーリング大会
3月		ひな祭り 設立 20 周年記念イベント

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	参加対象者
就労福祉部部長会議	毎月 2 回	部門統括・部長
就労福祉部合同運営会議	毎月 1 回	理事長・部門統括・部長・課長・課長補佐
職員会議・喫食会議	毎月 1 回	常勤職員
個別支援計画モニタリング会議	毎月 1 回	常勤職員
支援会議	随時	
虐待防止/身体拘束適正化/感染症及び食中毒予防、まん延防止委員会	毎月 1 回	指定常勤職員
安全衛生委員会	毎月 1 回	指定常勤職員

ハローワークチーム支援会議	毎月 1 回	指定常勤職員
部門統括による部内課長研修	隔月 1 回	課長・課長補佐

7 ヒヤリハット・行政への事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024 年度	927 件	0 件
2023 年度	535 件	1 件
2022 年度	304 件	0 件

2024 年度 寒川事業所事業報告

1 年度総括

中期経営計画 2025 における経営方針寒川事業所の収益構造の改善に向け、昨年度同様「食」のサービスにとどまらず、施設外就労・地域イベント活動の充足から利用者の確保に繋げて行こうと頑張りましたが、施設外就労ではご利用者の体調不良による離脱、また地域イベント活動については前半取捨選択しての参加により就労支援事業収益は少し減少となりました。訓練等給付費については加算の関係で增收できました。昨年度に続き黒字経営は達成し、平均工賃につきましては、昨年度以上の達成が難しい状況となったことから、下期には、部門統括をはじめ関係者による対策プロジェクトで企画立案し、実行することにより昨年同様(35,000 円/月)の数字を維持する事ができました。

年度内の一般就労輩出者はありませんでしたが、施設外就労を通じ利用者が次のステップに行けるだけの力をつけたように感じました。(利用者 1 名、3 月で寒川事業所を退所され就労移行支援事業所に移動されました。)

また、寒川町自立支援協議会への参加を通じ、町役場・相談事業所・医療機関・当事者家族等、地域に根差した交流を更に深めました。

2 実施事業

(1) 就労継続支援B型事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 昨年度同様、施設外就労を積極的に活用し作業環境の整備に取り組んで利用者ニーズに応えた多様なサービス（食堂接客・調理補助・簡易作業等）を提供する予定でしたが、猛暑等でご利用者が体調不良等になり休みがちになったものの、サービスの選択肢の拡充から更なる利用者の増員を図り、日々の平均利用人数は昨年度同様 16.4 名となりました。
- ② 地域農園・地域スーパーと連携を深め施設外就労の充足に努め継続的な「労働の場」として定着させることができました。新規開拓として、新たな地域農園と連携し施設外就労に向けた準備を継続しています。
- ③ 虐待防止(身体拘束禁止)委員会を設置し利用者の意思表示・決定へのプロセスに積極的な関わりを持ち、権利侵害のない本人主体の支援を遂行しました。(各種虐待防止職員チェックリスト実施・提案箱の投函確認)
- ④ 一般就労を希望する利用者については、施設外就労を進め就労準備性を高め自立へのステップを考えましたが、年度内の就職者輩出には至りませんでした。

- ⑤ 暑気払い・忘年会(慰労会)・日帰り旅行(来年度実施予定)・自主イベント企画等、各種イベントを実施しサービスの充実化に繋げました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 寒川町自立支援協議会に参画すると共に、地域の福祉情勢・福祉ニーズを把握し、寒川町事業所連絡会にて情報を共有しました。また、寒川町相談基幹センター、隣接する相談事業所、町役場とは緊密な関係を築き、より一層地域に根差した活動を推進しました。
- ② 寒川町北口新仲通り商店会の販売促進企画(夏まつり・産業まつり・スタンプラリー等)に積極的に参加するとともに、各種イベントの企画運営にも携わり地域商店会の活性化に努めました。
- ③ 地域イベントの参加にあたっては、衛生面・安全面の確保を行ったうえで参加しました。特に町主催の企画や地域スーパーマーケットの地場野菜促進イベントについては新たに「おすそわけマーケット実行委員会」と連携し積極的に参加、関係性を深め収益増に大きく繋げました。また、イベントを自主企画し開催することで、地域の活性化・サービスの向上に繋げることができました。活動状況については、SNS等に掲載し広域認知度向上に努めました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 就労支援に携わる福祉職員として、今年度は必要に応じた研修に参加出来なかった為、職場内研修(OJT)において、専門性に長けた実行力のある人材育成を目指しました。また、県実地指導に向け、制度・指導項目の理解浸透、法令遵守の徹底を図り適正サービスの遂行に努めました。
- ② 虐待防止委員会(身体拘束禁止)の開催、「虐待防止チェックリスト」を実施し「意思決定支援」「合理的配慮」を踏まえた適切なサービス・支援に繋げ、虐待・苦情の発生はありませんでした。ヒヤリハットレポートについては、年度を通じ毎月1人1件以上の報告は達成できました。就労支援現場における事故もありませんでした。
- ③ 生産活動については、顧客のニーズ・季節感を考慮したメニュー、献立の開発を「農福連携」「地産地消」を常に視野に入れ自己研鑽しながら進め、地場野菜弁当の開発を行いました。年度を通じて黒字経営は達成できましたが、就労支援事業収支については原材料高騰の影響・前期お弁当等の受注減・施設外就労の受注減からマイナス計上となり「生産」と「支援」の両輪経営のバランスに課題が残りました。
- ④ 部門統括による就労課長職・課長補佐研修を2か月に1度の頻度で実施しました。2024年度は、2023年度実施した研修からハラスマントアンケートを実施し、職員一人一人の意識向上に勤めました。2024年度については、就労福祉部各事業

所で実施している「業務の振返りチェックシート」の統一化を図り、2025 年度に実施することといたしました。

4 数値実績

就労継続支援 B 型事業	
利用定員（名）	20 名（平均利用者数 16.4 名/日）
利用総数（名）	4140 名
稼働延日数（日）	252 日
稼働率（%）	82%
利用者登録数（名）	21 名
職員数（名）	管理者 1 名 サービス管理責任者 1 名 常勤職員 1 人 非常勤職員 6 人
常勤換算数	3.5 人/日

※生産活動実績（千円単位）

部 門	売 上	目標達成率	部 門	売 上	目標達成率
寒川まち食堂	7,101	109%	まちのお弁当屋さん	12,680	110%

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
4 月	統括による課長職研修①	健康診断（利用者） カレーフェス
5 月	神奈川県指導説明会	家族懇談会 稲門会地引網
6 月	統括による虐待研修 統括による課長職研修②	寒川町新仲通り商店会総会
7 月	事業所説明会（茅ヶ崎支援学校）	にっこりマーケット、暑気払い
8 月	統括による課長職研修③	寒川町夏祭り
9 月	神奈川県実地指導	障害者合同就職面接会（藤沢） 藤沢総合高等学校文化祭 希望寄席
10 月	統括による課長職研修④	寒川ふれあい福祉フェスティバル やすらぎ祭り ハロウィン自主企画イベント 健康診断（職員）
11 月		ふくし村まつり 産業まつり

12月	統括による課長職研修⑤ 幹部研修会	忘年会 年越し かき揚げ
1月	推進協会議	寒川町障がい福祉サービス事業所の つどい
2月	統括による課長職研修⑥	茅ヶ崎・寒川事業所説明会
3月	安全衛生 統括巡視 茅ヶ崎保健所 立入(総菜販売 確認)	避難訓練 慰労会(参集殿にて) 寒川町北部/南部公民館まつり

6 主な会議等 (法人全体会議を除く)

会議名等	開催日	備考
就労福祉部部長会議	毎月第2第4火曜	部門統括・部長
就労福祉部合同運営会議	毎月第4火曜	総合施設長・部門統括・部長・課長・課長補佐
新規B型事業所事務局会議	毎月第2第4火曜	部門統括・部長・農福連携室
職員会議	毎月第3金曜	常勤職員
就労福祉部安全衛生会議	毎月第3火曜	部門統括・部長・課長(事務局)
課長職・課長補佐研修	毎月第2火曜	部門統括・課長・課長補佐

7 ヒヤリハット・事故報告

年 度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	60件	1件
2023年度	72件	1件
2022年度	84件	0件

2024年度 湘南希望の郷事業報告

1 年度総括

湘南希望の郷では、感染症予防対策を通年で講じながら運営をしてまいりました。数名の利用者、職員が新型コロナウイルスに罹患しましたが、感染症対策委員会の開催やB C P（事業継続計画）に基づき適切に対応することで、感染拡大を最小限に留め、短期間での収束につなげております。こうした対応を継続しながら利用者の買い物外出、散歩外出の再開や近隣小学校との交流及び障害者スポーツの行事に積極的に参加し、活動プログラムの拡充、社会参加支援を推進してまいりました。また、利用者及びご家族が参加し、今後の湘南希望の郷のあり方を職員とともに検討する「郷づくり委員会」を全面再開しました。

職員育成の取り組みとして、強度行動障害支援者養成研修の受講や提出されたヒヤリハットレポートを題材としたK Y T（危険予知訓練）研修を年5回実施することで人権意識、リスクマネジメントの向上を図りました。

地域協働・地域貢献の取り組みとして、行事関係ボランティア、実習生の受入れを積極的に行い、地域活性化への一翼を担いました。

2 実施事業

- (1) 生活介護事業
- (2) 施設入所支援事業
- (3) 短期入所事業
- (4) 障害福祉サービス等地域拠点事業所配置事業（湘南東部あんしんネット）
- (5) 地域生活支援等事業（居室確保）藤沢市・寒川町

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 入所施設として感染状況、社会情勢を注視しながら、利用者自治会、家族会と協議を重ね、各種行事を再開しました。
 - ② 神奈川県が策定した「意思決定支援ガイドライン」を活用しながら支援を行うとともに、ケアプラン会議ではご本人に同席していただき、ご希望及びご要望を丁寧に伺うことでご本人中心の障害者ケアマネジメントに取り組みました。
 - ③ 感染防止対策を通年で講じ、感染拡大を最小限に留めることで日常生活の維持に努めました。また、大掃除を年2回実施し、快適な施設生活を実現する衛生環境づくりに取り組みました。
 - ④ 法人の職員倫理綱領を毎週1回朝礼時に読み上げ、人権を尊重した基本姿勢を

持するよう努め、虐待事例無しとなりました。

- ⑤ B C P (事業継続計画)について全職員を対象としたアンケート及び研修を実施し、その結果を踏まえて運営会議にて協議し更新を行いました。
- ⑥ 提出されたヒヤリハットレポートを題材とした、K Y T研修を計 5 回実施し、危険予知の意識・感性の向上に努めました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 法人ホームページの更新は、季節行事を中心に毎月 1 回以上行い、入所施設の活動や近況を掲載することで地域の理解をより得られるように努めました。
- ② 湘南希望の郷機関紙「希望通信」を隔月発行し、施設内の様子だけでなくご覧になるご家族向けに健康に関する情報なども掲載し、紙面の充実を図りました。
- ③ ボランティア、実習生の受け入れを積極的に行うことで施設の透明性、公開性の維持につなげました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 採用後 3 年未満の職員に対し、課長補佐、チームリーダー職によるO J Tを通年で行い職場定着率を高めるとともに、介護技術の向上に努めました。
- ② 常勤、非常勤職員共に年 2 回、管理職による個別面談を実施。課題を抱えている職員に対して適宜面談を実施し、普段発信しにくい意見や悩みを吸い上げる機会を設けることで、より風通しの良い職場風土づくりを目指しました。
- ③ 衛生委員会を毎月開催し、委員会内で実施した研修等の内容を全職員に周知し労働災害防止に努めました。また、ストレスチェックを実施しました。
- ④ 就業規則浸透のため、年間を通して服務カレンダーの読み合わせを行いました。

4 数値実績

2025 年 3 月 31 日現在

	生活介護 支援	施設入所 支援	短期入所	あんしん ネット	居室確保
利用定員	60 人	56 人 (空床型 短期入所)	4 人 (併設型)	-	-
利用登録者数	53 人	53 人	81 人	15 人	-
利用者延数	13,921 人	19,450 人	1,422 人	372 人	-
稼働延日数	261 日	365 日	365 日	365 日	365 日
稼働率	88.9%	95.2%	97.4%	-	-
職員数	常勤 34 人 (管理者・サービス管理責任者含む) 非常勤 25 人				
常勤換算数	49.3 人				

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
4月	新任職員研修	健康診断・県障害者スポーツ大会 明大チャリティーアート展
5月	強度行動障害支援者養成研修（基礎）、強度行動障害支援者養成研修修了者ミーティング	利用者家族職員懇談会、大掃除
6月	強度行動障害支援者養成研修（基礎）、KYT研修	ローリングバレー交流大会
7月		ローリングバレーホール練習
8月	新任福祉介護施設等職員合同交流研修会	夏のおやつパーティー
9月		ローリングバレーホール練習、エンジエルスマニコンサート
10月	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	健康診断、御所見文化祭
11月	かながわ地域生活移行推進人材養成研修	ローリングバレーホール練習、ふれあいスポーツ交流会、中里小学校ボッチャ交流会
12月	全身協第22回地域生活支援推進研究会議、第42回関東・甲信越地区身体障害者施設職員研修大会、強度行動障害支援者養成研修（基礎）、KYT研修	クリスマス会、大掃除
1月	KYT研修	新春お茶会
2月	KYT研修	節分の会、御所見小学校ボッチャ交流会
3月	全身協第37回経営セミナー、KYT研修	ローリングバレーホール練習、ふじさわボッチャ大会

6 主な会議等

会議名等	開催日	備考
藤沢北地域福祉部部長会議	毎月第1・3木曜日	部門統括、各部長
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅福祉部、相談支援・地域医療部の合同会議

運営会議	毎月第4木曜日	各担当責任者
虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会兼ねる）	毎月第4木曜日	各担当責任者
ケアプラン会議	毎月第2・4水曜日	サービス管理責任者他
衛生委員会	毎月第3火曜日	各委員
感染症等対策委員会	3か月に1回	
地域生活支援拠点会議	隔月最終月曜日	相談支援・地域医療部、在宅福祉部との合同開催

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	228件	13件
2023年度	264件	6件
2022年度	417件	9件

2024 年度 藤沢サンライズ事業報告

1 年度総括

「中期経営計画 2025」に基づき、地域における利便性の高い共同生活援助事業所を目指し、地域の事業所や関係機関と連携を強化しました。結果として、問い合わせが 26 件、希望されるホームの見学が 12 件ありました。

特に、地域生活支援拠点の充実に必要な体験の場としての利用や緊急受入れ等の地域ニーズに応えられるよう、神奈川県地域生活定着支援センターからの依頼で、更生施設から出所された方を受け入れました。また、児童養護施設からの依頼で、ネグレクトの虐待ケースの方の受け入れや、住んでいたアパートが取り壊しとなるため、その後の住居として入居されました。

支援体制においては、職員同士によるサポート体制の確保や職員の専門性向上に取組み、支援体制の安定を図りました。

2 実施事業

(1) 介護サービス包括型共同生活援助事業

藤沢サンライズおそごう・たかくら・おおば・こうゆう・くずはら

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 将来を見据えた目標設定の視点を強化し、以下のことを進めました。
 - ア 地域と連携し新規利用者の受け入れを 3 名行いました。
 - イ グループホームを体験の機会及び場として、おそごうの空室となっている居室を準備いたしました。
 - ウ 入居者に対して、本人が目指す未来像を具体的に個別支援計画へ明記しました。
- ② 利用者が食事に対する満足感を感じられる様、誕生日等の行事食を企画及び提供しました。
- ③ 職員への虐待防止に対する意識向上を図るため、虐待防止委員会を年 12 回行い、その中で権利擁護に関する意見交換会も行いました。
- ④ 火災時避難訓練、土砂災害想定訓練を利用者自身が防災意識を持てるように勉強会を年 6 回行いました。また、熱中症対策として保冷剤・経口補水液を常備しました。
- ⑤ 事故の未然防止対策として、事業所内で起きたヒヤリハット及び他の居住サービスで起きた事例を職員間で共有すると共に、世話人会議でも周知を行い、藤沢サンライズ全体の意識付けと再発防止に取組みました。また、藤沢サンライズおそご

うについては、安全安心のため防犯カメラを増設いたしました。

- ⑦ 利用者の高齢化と共に、そのニーズが変化していく状況の中で、安心して生活が継続できるよう、相談支援専門員や介護支援専門員等と連携し、支援体制の構築を図りました。また、医療に繋がっていなかった方に対しては、定期受診や訪問看護等へ繋げる事ができました。
- ⑧ 建物設備の故障や不備に対して迅速に対応する事ができました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 災害時の支援の他、地域共生社会促進のため、利用者が一人でも多くの地域住民との繋がりが持てるよう、地域行事等の情報提供を利用者ミーティングにて年6回行いました。
- ② 災害発生時の円滑な情報の共有に向けて、情報受伝達訓練を年2回行いました。
- ③ 行事・利用状況のホームページや各ホームの掲示板を活用してタイムリーな行事・入居者状況等の情報発信を年10回行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 日常業務において、上位職員及び専門職によるスーパーバイズを積極的に行い、支援の方向性と透明性を保持することができました。結果として、離職者は2名に抑えられ離職率10%以下にする事ができました。
- ② 権利侵害や不適切な支援に関する意識を高めるため、支援者調査シートを年4回実施したこと、自己評価も年4回行う事ができました。
- ③ ヒヤリハット報告を毎月行う、ホーム毎の世話人会議でも共有し、全職員に周知する事で、事故防止に努めました。

4 数値実績

藤沢サンライズ	おそごう	たかくら	おおば	こうゆう	くずはら
利用定員	10人	5人	5人	4人	6人
利用者登録数	9人	5人	5人	4人	6人
稼働者延数	2,886人	1,806人	1,320人	1,431人	2,168人
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	365日
稼働率	79%	99%	72%	98%	99%
職員配置人数(予算人員)	職員4人(管理者・サービス管理責任者)+世話人25人				
常勤換算数	2.7人	1.5人	1.5人	1.6人	1.4人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
4月	虐待防止研修	
5月		避難訓練（火災想定）
6月	感染症対策研修	誕生日会（おおば・たかくら）
7月	情報受伝達訓練	避難訓練（防災の勉強会「防災気象情報と警戒レベル」）誕生日会（おそごう・こうゆう）行事食（全ホームに【うなぎの提供】）
8月		
9月		避難訓練（地震想定の共有部分と居室の危険個所の点検）誕生日会（おそごう）
10月	【心のバリアフリー】住まいと暮らし連絡会研修会	誕生日会（おそごう・おおば）
11月	【大人の発達障害】住まいと暮らし連絡研修会	避難訓練（火災想定の危険個所の点検）誕生日会（くすはら・おそごう）
12月		誕生日会（こうゆう・たかくら・くずはら）クリスマス会（全ホーム）
1月	情報受伝達訓練	避難訓練（土砂災害想定・火災想定）誕生日会（たかくら・おそごう）行事食（全ホームに【恵方巻の提供】）
2月		誕生日会（くずはら・たかくら・こうゆう）
3月	【矯正施設・少年院を退所した障がい者等の地域生活を支援するための研修会】神奈川県地域生活定着支援センター講師	避難訓練（地震想定）誕生日会（こうゆう・おおば・くずはら）行事食（全ホームに【寒川食堂のオードブルを提供】）

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢サンライズ G 連絡会議	毎月第2火曜日	サンライズ職員
藤沢サンライズアセスメント会議	毎月最終火曜日	サンライズ職員
各ホームの世話人会議 個別支援検討会議	毎月第2週（月・火・木・金）	サンライズ職員、世話人

利用者ミーティング	奇数月 第1週～第2週 (月～金)	利用者、サンライズ職員
虐待防止委員会	毎月第2火曜日	虐待防止委員会構成員
三部署合同部長会議	毎月1回	藤沢北地域福祉部、在宅福祉部、相談・地域医療部の合同会議
地域生活支援拠点会議	2ヶ月に1回	

7 ヒヤリハット・事故報告

年 度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024 年度	52 件	4 件
2023 年度	97 件	1 件
2022 年度	57 件	3 件

2024年度 湘南あっとほーむ・ひだまり事業報告

1 年度総括

年度方針として掲げた「入居者それぞれが地域住民との交流の下で自立した生活を営むことが出来るホームという考え方を基本とし、地域生活に主眼を置いた運営を行なう」という方針を念頭に置き、地域自治会が行う清掃活動や防災訓練への参加、地域の方も対象としたひだまりまつりの開催等、地域との連携及び協力を推進する運営を行ってまいりました。

利用者支援においては、残念ながら1件の虐待事案が発生し、法人の信頼を損なう結果となりましたが、法人、事業所職員一丸となって改善へ向け取り組み、行政より改善が認められております。

開所以来課題としている職員の人員不足については、離職率の低下、積極的な採用活動により、概ね予算人員を満たすことができました。

2 実施事業

- (1) 共同生活援助事業（日中サービス支援型）
- (2) 短期入所事業

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢

- ① 全職員対象に人権・権利擁護に関するアンケートを実施し現状の課題を把握し対応すること、虐待防止委員会を毎月開催することで、人権意識の向上に関わる啓発を行ないました。権利擁護担当者を中心に入権意識の向上についての月次テーマを決め、朝礼時に唱和するなど、日々の支援について振り返る機会を設けたほか、外部講師による虐待防止研修の開催や「気になる言動のある職員を見聞きした時のフローチャート」を作成し、運用することで虐待防止に取り組みました。
- ② 人権擁護的な要素も含む入居者の満足度を図るアンケートを行い、現況を把握しサービス向上につなげる対応を行うと共に結果を公表することで入居者の満足度向上に努めました。
- ③ 訪問看護を実施している地域の事業者に、医療的ケアが必要な短期入所の利用者に対して、夜間や休日に必要に応じて医療的ケアを提供できないか打診しましたが、医療保険の制度上、短期入所利用中に看護サービスを提供しても診療報酬が支払われないことが理由で、短期入所利用中に訪問看護による医療ケアの提供は実現しませんでした。一方で、お一人の共同生活援助の入居者については、一定期間痰の吸引や点滴の処置等のために訪問看護サービス等と連携することで、ご本

人の意向どおり、当ホームでお看取りさせていただくことができました。

- ④ 湘南希望の郷と短期入所の受入れの連携について協議する場を適宜設け稼働率の向上につながりました。
- ⑤ 生活の彩を大切にし、入居者の意見を取り入れつつ、誕生日会・夕涼み会・ひだまりまつり・ハロウィン・クリスマス等、様々な行事を企画して利用者に楽しんでいただきました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 消防署に届出をしての防災訓練を年 2 回実施しました。また、所属する自治会や近隣地区の団体が主催する防災訓練、清掃活動、催事等に職員・入居者が積極的に参加することで近隣住民と入居者の繋がりを深めることができました。また、地域の方も対象としたひだまりまつりを開催し、延べ 100 人弱の方と交流の場を持つことができました。
- ② 事業所の活動や入居者の暮らしぶりについて、ホームページを利用して毎月 1 回以上の情報発信を行ないました。
- ③ 併設している短期入所事業をグループホーム入居の体験の場として 3 人の方に合計 16 泊、活用していただきました。
- ④ 短期入所のニーズに幅広く応えるため、可能な限り医療的ケアのある方を受け入れるよう取り組み、今年度は 2 人の方（胃ろうの方と酸素吸入をされている方）について利用に向けて準備を進めましたが、体調が芳しくなくなったため、利用には至りませんでした。また、できる限り短期入所利用者の自宅や通所先に送迎するよう取り組んだ結果、32 回の送迎実績となりました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 人事考課時に決める年間個人目標に対して、進捗面談を定期的に行ない、管理職と現場職で互いに現状の課題を把握し、課題解決を図ることに努めました。
- ② 職員に対し、支援の専門性・対人スキル（コミュニケーションスキル）・人権意識を高めるため、「知的障害者との関わり」、「意思決定支援」、「報告・連絡・相談のあり方」、「虐待防止」等について、研修を計画的に受講することができました。
- ③ 管理職・現場職が日頃から気兼ねなくコミュニケーションを取り、風通しの良い職場環境にすることで、業務上の課題抽出や改善を行いやくし、開所当初から上げている「ワンチーム」で働きやすい職場環境作りに取り組みました。

4 数値実績

2025 年 3 月 31 日現在

	共同生活援助事業	短期入所事業
利用定員	19 人	1 人

利用登録者数	19人	66人
利用者延数	6,674人	447人
稼働延日数	365日	365日
稼働率	96.2%	122.5%
職員数	常勤 11人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤 16人	
常勤換算数	18.1人	

5 年間行事（法人全体研修・行事を除く）

月	研修等	行事等
4月		誕生日会
5月		ペタンク体験教室参加
6月		誕生日会
7月		七夕
8月		夕涼み会（花火）
9月	コミュニケーション研修	誕生日会
10月	虐待防止研修（動画視聴）	ひだまりまつり 2024
11月	意思決定支援研修	震災・火災避難訓練、ハロウィン
12月	感染症防止研修、障害理解研修	
1月	虐待防止研修（外部講師）	新年会
2月	「報・連・相」研修	節分、バレンタイン
3月		消防避難訓練、ひなまつり

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢北地域福祉部部長会議	毎月第1・3木曜日	部門統括、各部長
合同部長会議	毎月最終月曜日	理事長、藤沢北地域福祉部、在宅福祉部、相談支援・地域医療部の合同会議
運営会議	毎月第3水曜日	ひだまり職員
個別支援会議	毎月第2水曜日	ひだまり職員
虐待防止委員会（身体拘束適正化委員会を兼ねる）	毎月第3水曜日	ひだまり職員
地域生活支援拠点会議	隔月最終月曜日	相談支援・地域医療部、在宅福祉部との合同開催

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024 年度	97 件	4 件
2023 年度	56 件	0 件
2022 年度	77 件	3 件

2024年度 在宅支援センター事業報告

1 年度総括

在宅支援センターは、職員の支援力の向上を掲げ、内部・外部研修への参加をはじめ、他団体と協力し、研修を行うことで職員の専門性の向上に繋がりました。また研修やイベントを通じ、様々な繋がりを持つことができ、個人・事業所としてのネットワークも構築することができました。

神奈川県から指定を受けて実施している「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」、「強度行動障害支援者養成研修（実践研修）」を各1回実施しました。また、同行援護従事者養成研修も1回実施しました。

地域の縁側かわうそでは、通所施設と併設されている利点を活かし、プログラムを通して、多くの利用者と交流することができました。

2 実施事業

- (1) 湘南希望の郷ケアセンター：生活介護（通所）
- (2) 発達支援センターリエール：生活介護（通所）
 - 強度行動障害支援者養成研修事業（基礎・実践）
- (3) 希望の郷ヘルパーステーション：居宅介護・重度訪問介護・同行援護
 - 移動支援（市町村事業）
 - 同行援護従事者養成研修事業
- (4) 地域の縁側かわうそ：藤沢市地域の縁側「基本型」
 - 藤沢市支えあう地域づくり活動事業

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① サービスの質の向上
 - 支援の個別化を行い、P D C Aサイクルに沿って支援を行い日中支援の充実を図ることができました。また、意志決定支援研修は職員に対して神奈川県知的障害施設協会の動画を活用し、年1回実施しました。
 - 医療的ケアの方が安心して利用できる環境作りとして、喀痰吸引研修修了3号を1名が取得することができました。
 - ② 包括的支援の充実・展開
 - ケアセンターでは家族懇談会を1回、家族教室を1回、また、公開講座「医療的ケア重症心身障がい児者の支援を考える」では外部講師を招き、1回実施しました。
 - リエールでは家族懇談会を1回、家族教室を3回、公開講座「自閉症と薬の話」を

外部講師を招き、1回実施しました。

神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターが主催するワークショップを3回実施しました。またワークショップへ参加した事業所の報告会へ参加しました。ケアセンターでは「江ノ島シーキャンドルへのぼろう！」を企画し、医療的ケアの方2名（ご家族も参加）が参加し、実施しました。リエールでは藤沢市自閉症児者親の会が主催する「世界自閉症啓発デー」へ利用者3名と参加いたしました。

地域課題の一つである「親あるうち」の支援として医療的ケアのある方の短期入所について、通所事業所で出来ることを検討し、実施いたしました。

③ 安全・安心の環境整備

ケアセンターとリエールでは火災を想定した避難訓練を1回、地震を想定した避難訓練を1回行いました。加えて、リエールでは垂直避難訓練を1回実施しました。

新型コロナウイルス罹患者が発生し、感染症拡大防止と振り返りを含めた研修を実施しました。

（2）地域社会に対する基本姿勢

① 地域共生社会への推進

事業所やご家族へのコンサルテーションを年間16回実施しました。また、8月より愛名やまゆり園の支援アドバイザーを受託し、月6回実施しました。

普通救命講習Ⅰを年1回開催し、他事業所の方も参加しました。また、救急セーフティネット標準の期限が満期となり更新を行いました。

② 信頼と協力を得るための積極的なPR

在宅支援センターはホームページへの掲載を毎月実施しました。また、地域の縁側かわうそは毎月プログラムを発行し、全戸配布しました。

（3）福祉人材に対する基本姿勢

① 人材育成に向けた取組の強化

外部研修会等の受講については、自閉症eサービス、AS-Netかながわ、TEACCHプログラム研究会等の主催する研修へ職員が参加し、実際の支援の場で活かすことができました。また、外部研修会への会場の提供を行い、また、当事者も研修の協力者として参加していただきました。

内部研修会等では、外部研修受講後の伝達研修や、障害理解を深める研修を実施しました。また、神奈川ワークショップと連携し、アンガーマネジメント研修1回、虐待防止研修1回実施しました。

② 人材定着に向けた取組の強化

個々の支援力や専門性の向上については一定の成果が見られ、着実に進展して

きました。しかし、チーム全体としての支援力を高めるための取り組みについては、今後の課題として認識されてきました。

障害者雇用について、地域の縁側や、事業所の環境整備の仕事を担っていただき、就労定着支援のスタッフとも定期的に話し合いの場を設け、課題感の共有、問題解決に取組みました。

4 数値実績

2025年3月31日現在

	湘南希望の郷ケアセンター	発達支援センターリエール
利用定員	20人	20人
利用登録者数	23人	35人
稼働者延数	1,899人	4,852人
稼働延日数	244日	243日
稼働率	40%	100%
職員数	常勤5人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤2人	常勤13人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤3人
常勤換算数	6.8人	15.1人

ヘルパーステーション	居宅	同行援護	移動支援
利用登録者数	10人	65人	6人
利用延時間	0	13,207	0
稼働延日数	365日	365日	365日
職員数	3人（管理者・サービス提供責任者）		
ヘルパー職員数		27人	

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	主な研修等	行事等
4月	自閉症eサービス	自閉症啓発デー
5月	自閉症eサービス、嘱託医勉強会、Teacch研究会	家族懇談会（ケアセンター、リエール）
6月	自閉症eサービス、Teacch研究会 AS-Netかながわカフェミーティング、嘱託医勉強会	江の島シーキャンドルへのぼろう！
7月	トレーニングセミナー、自閉症eサービス、Teacch研究会、嘱託医勉強会	

8月	自閉症eサービス、Teacch研究会 嘱託医勉強会	家族教室（リエール） 宿泊体験行事（ケアセンター）
9月	Teacch研究会、感染症研修	緊急時受け入れ（ケアセンター） 避難訓練（火災）（ケアセンター）
10月	自閉症eサービス、アセスメント研修 Teacch研究会研修会、嘱託医勉強会	
11月	自閉症eサービス、嘱託医勉強会 AS-Netかながわ実践報告会、 Teacch研究会	家族教室（リエール） 宿泊体験行事（ケアセンター）
12月	自閉症eサービス、嘱託医勉強会 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）、アンガーマネジメント研修、 Teacch研究会研修会	
1月	自閉症eサービス（評価セミナー） 感染症防止研修会	
2月	自閉症eサービス、嘱託医勉強会 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	避難訓練（地震）ケアセンター 家族教室 公開講座（リエール）
3月	同行援護従事者研修（一般・応用研修） 自閉症eサービス、虐待防止研修、 AS-Netかながわ実践報告会 嘱託医勉強会	避難訓練（火災・垂直）リエール 家族教室 公開講座（ケアセンター）

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
職員会議	毎月1回	
虐待防止委員会（本会議）	年2回	外部委員を含む
虐待防止委員会（事業所部会）	毎月1回	
行動支援検討委員会	毎月1回	
三部署合同部長会議	毎月最終月曜日	藤沢北地域福祉部、在宅福祉部、相談・地域医療部の合同会議
地域生活支援拠点会議	各月で実施	藤沢北地域福祉部、相談支援・地域医療部、在宅福祉部の部門統括、部長、課長

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024 年度	149 件	7 件
2023 年度	156 件	5 件
2022 年度	92 件	1 件

2024 年度 太陽の家運営管理室・体育館事業報告

1 年度総括

太陽の家については、藤沢市から指定管理を受けている施設で、2024 年度は第 6 期 5 年間の 2 年目であり、藤沢市と情報交換を密にしながら施設の維持に努めました。

1975 年に開設した施設は、設備全体の老朽化が進んでおり、優先度合を考慮して 3 階厨房排水溝、地下機械室給湯管などの排水関係や支援室・トイレ等の電気設備の修繕を行なって、安定的に施設運営が継続できるよう整備を行ないました。

太陽の家体育館は、指定管理事業の一環として、障害者の方がスポーツを行なえる場として、障害者スポーツの普及と太陽の家利用児者の健康管理の役割を担っており、流行性ウイルス感染症等の感染防止対策を講じつつ、体育館としての本来の使命を実現するために、障害者に特化して障害者スポーツ自主事業を行ないました。

2 実施事業

- (1) 太陽の家施設・設備維持管理事業（藤沢市指定管理事業）
- (2) 太陽の家体育館:体育館運営事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 職場改善の 3S（整理・整頓・清掃）活動を行ないました。
- ② 法人の倫理規程を周知し、人権を尊重した基本姿勢の保持につなげました。
- ③ 月に 1 回、虐待防止委員会を開催するとともに、全職員を対象に虐待防止研修を開催し人権擁護意識を高めました。
- ④ 毎月の自主点検に加え、藤沢市消防本部と連携し、太陽の家総合防災訓練を実施し、避難誘導の手順の確認、模擬消火器を使用した消火訓練、煙体験などを実施しました。
- ⑤ 太陽の家まつりは、地域に開かれた施設として、利用児者やその家族のみならず、地域からの来客を多くお招きして実施しました。

2025 年度の太陽の家開設 50 周年に向けて、盛大に盛り上りました。

- ⑥ 老朽化する施設の維持と、継続的な事業運営のため、配管関係や電気設備などの修繕や補修を行ない、安定的にサービス提供ができるよう努めました。
- ⑦ 太陽の家体育館として、流行性ウイルス感染症等の感染症対策を講じながら、体育館の本来の使命を実現するために、障害者に特化した障害者スポーツ自主事業を行ないました。
- ⑧ 太陽の家体育館の新たな障害者スポーツ種目の普及を目指して、昨年度に続いてシャフルボード大会「第 2 回太陽の家カップ」を開催し、60 名程の参加があり、

大変な盛り上がりで実施しました。

⑨ 太陽の家行事実施及び参加状況については次のとおりです。

5月 鶴沼地区社会福祉協議会総会（書面開催）

6月 太陽の家まつり

11月 太陽の家総合防災訓練

⑩ 藤沢市障がい者支援課・子ども家庭課との連絡調整会議を実施しました。

（2）地域社会に対する基本姿勢

① 藤沢市指定避難所として施設の管理と調整を行ないませんでした。

② 福祉なんでも相談窓口を継続して開設しています。（本年度受付は0件）

③ 藤沢市鶴沼地区防災拠点本部（鶴沼市民センター）と、避難施設としての情報の共有、器具庫内の備品等の点検及び更新については行なわれなかつたが、体育館エレベーター内に設置してある防災用備蓄ボックスの業者定期点検を年1回は行なうこととして、災害時に備えました。

④ 毎年関係団体と連携して実施しているローリングバレーボール講習会と、フロアバレー講習会は自主事業の中で行ないません。（体育館）

⑤ 選挙時には、投票所として施設管理者業務を行ないませんでした。

（3）福祉人材に対する基本姿勢

① 全職員を対象に、4月20日（土）に健康診断を実施しました。

4 数値実績

2025年3月31日現在

体育館事業（会議室含む）	
利用者延数	14,545人
稼働延日数	午前142日、午後204日、夜202日
稼働率	午前46.6%、午後66.9% 夜66.2%
職員数	常勤2人（兼務2人） 非常勤8人
常勤換算数	0.49人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
6月		太陽の家まつり
11月		S T T大会
12月		障がい者交流卓球大会 インフルエンザ予防接種

2月		シャフルボード体験会
----	--	------------

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢市との連絡調整会議	偶数月第3水曜日	障がい者支援課・子ども家庭課
藤沢南地域福祉部運営会議	毎月最終水曜日	総合施設長・部門統括・各事業所管理職
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	部門統括・各事業所部長
衛生推進委員会	毎月第2火曜日	衛生推進委員（各事業所から選出）
体育館職員全体会議	毎月第1水曜日	
体育館職員打ち合わせ	毎月第3水曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	59件	0件
2023年度	86件	0件
2022年度	55件	0件

2024年度 太陽の家しいの実学園事業報告

1 年度総括

2024年度の児童発達支援センターである太陽の家しいの実学園は、報酬改定により新設された中核機能加算を取得し、行政等と連携を図りながら、児童分野における各種会議などの事務局などを担い、地域の中核施設として活動をしました。

また、藤沢市障がい者総合支援協議会の委員を務め、藤沢市における障害児者の地域生活における必要な体制整備を審議いたしました。

より良い事業運営のきっかけづくりとして、第三者評価の受審しました。

保育所等訪問支援事業において地域ニーズに応えるべく、専門的な知識を持つ保育士の派遣や人材育成の観点より訪問支援員を新たに1名配置しました。

居宅訪問型児童発達支援においては、藤沢市唯一の事業所として事業を展開し、その結果として、事業趣旨である「居宅から地域への移行」が叶ったことは、大きな成果と考えます。

2 実施事業

- (1) 児童発達支援事業
- (2) 保育所等訪問支援事業
- (3) 障害児相談支援事業・計画相談支援事業
- (4) 居宅訪問型児童発達支援事業

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢

① 人材不足である中、利用者の質の向上及び安定的な事業の展開の目的から、1クラス3名程度の担任制から、1グループ7~10名程度の職員を配置し、1グループあたり2クラスを担当しました。

結果、幅広い考え方の支援を展開できた他、職員の急な休みなどにも、大きな混乱なく事業の継続が図れました。

② 新たな相談支援専門員を1名配置することができました。

また、主任相談支援専門員に関しては、落選し取得には至りませんでした。

今後の事業継続には必須と考えます。

③ 保育所等訪問支援事業は、年度途中に1件の新規利用者と契約を行い、9件にとどまりました。

④ 居宅訪問型児童発達支援事業においては、1件の利用者との契約があったが、年度途中に、児童発達支援事業への完全移行が叶い、役目を終えました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

① 地域住民へ向けた研修会の実施には至りませんでした。

しかし、太陽の家キャロットと共に開催の保護者向けの研修会は全 12 回実施し、地域福祉の推進に寄与しました。

② 活動の様子などを毎月 2 回程度ホームページへ掲載をしました。

また、保護者向け広報紙として、「しいの実・キャロットだより」を毎月発行しました。お便りは、活動の様子などわかりやすく発信するツールとして発行し、写真をメインとしたものへ一新しました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

① 実習生は、13 校 20 名の実習生の受け入れを行った他、ボランティアの受け入れも行いました。

また、福祉の魅力の発信及び職員の獲得の目的より、県内外の養成校 18 校 40 回程度の訪問をいたしました。

結果、2025 年度は当事業所で実習をしていない、2 名の職員が就職へつながりました。

② 定時の退社の励行を行いました。

また、前述の通り、クラス運営の改革を行い、スムーズな有休取得へ繋げました。

4 数値実績

2025 年 3 月 31 日現在

	児童発達支援 事業	障害児相談支 援事業	保育所等 訪問支援 事業	居宅訪問支 援事業
利用定員	60 人	—	—	—
利用登録者数	75 人	130 人	9 人	2 人
稼働者延数	12,725 人	515 人	90 人	6 人
稼働延日数	245 日	245 日	90 日	7 日
稼働率	87%	—	—	—
職員数	常勤 21 人(管 理者・児童発達 支援管理責任者 含む) 非常勤 17 人	常勤 3 人(兼 務 1 人含む) 非常勤 1 人	常勤 3 人(管理 者・児童発達 支援管理責任者 含む)	
常勤換算数	31.9 人	3.9 人	0.3 人	

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4月		入園を祝う会 全体懇談会
6月	身体拘束・虐待防止研修 お口の健康について	太陽の家まつり
		クラス懇談会 個人面談
7月	児童発達支援管理責任者補足研修	保護者参観日
8月		個人面談
9月	強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)	
10月	神奈川県社会福祉協議会主催の 新任職員研修	全体懇談会 運動会
11月	藤沢市保健所配信のノロウイルス研修動画の視聴	さつま芋掘り 保護者参観日 次年度入園説明会
12月	強度行動障害支援者養成研修 (実践研修) 強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修) 相談支援従事者初任者研修	餅つき大会
1月	早期療育普及研修 藤沢で起こりえる災害と藤沢の 防災システム研修 児童発達支援管理責任者補足研修	新入園面談 個人面談
2月	感染症にまつわる研修（実地）	
3月	自閉傾向にある児童に対しての 適切な支援について	次年度入園説明会 卒園式

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢南地域福祉部門内会議	毎週木曜日	
太陽の家運営会議	毎月最終水曜日	
藤沢市連絡調整会議	隔月第3水曜日	
職員会議	毎月第4木曜日	
身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会	毎月第3月曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	127件	1件
2023年度	259件	0件
2022年度	183件	7件

※太陽の家キャロットと合計数

2024 年度 太陽の家キャロット事業報告

1 年度総括

2024 年度の太陽の家キャロットは、地域のニーズの応え、地域の保育園や幼稚園などと併行通園する児童に対して特化した事業所として再開いたしました。

上記のことより、幼稚園や保育園と連携を意識ながら支援を行った他、地域の活動にも少しながら継続的に参加し、特色を生かした活動を行いました。

2025 年度の入園希望者は募集人員を超える応募があり、地域のニーズを改めて感じる年度となりました。

2 実施事業

(1) 児童発達支援事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

① 少人数のクラス配置から、集団及び個別の療育を意識し日々のプログラムを実施いたしました。

また、地域包括支援センター主催の公園体操へ月 1 回参加し地域交流・異年齢交流を図りました。

② 年 1 回は、併行通園先を訪問し、連携を図りました。

また、併行通園先からも、来訪いただき支援の様子を確認していただくことにより、相互の支援の方向性を確認する機会となりました。

年間を通して給食を提供し、長時間療育を展開する他、食育も進めました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

① 併行通園先を訪問する中で、療育を必要とする園児のニーズの多さを確認しました。

結果、児童発達支援センター藤沢市太陽の家しいの実学園の保育所等訪問支援や障害児相談支援につなげる動きを取りました。

② 地域住民へ向けた研修会の実施には至りませんでした。

しかし、太陽の家キャロットと共に保護者向けの研修会は全 12 回実施し、地域福祉の推進に寄与しました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

① 実習生は、2 校 2 名の実習生を受け入れました。

また、福祉の魅力の発信及び職員の獲得の目的より、県内外の養成校 18 校へ年 2~3 回訪問を重ねました。

② 定時の退社の励行を行いました。

4 数値実績

2025 年 3 月 31 日現在

児童発達支援事業	
利用定員	10 人
利用登録者数	19 人
稼働者延数	2,255 人
稼働延日数	243 日
稼働率	93%
職員数	常勤 5 人（管理者・児童発達支援管理責任者含む） 非常勤 1 人
常勤換算数	4.1 人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	研修等	行事等
4 月		入園を祝う会
6 月	身体拘束・虐待防止研修 お口の健康について	太陽の家まつり
		個人面談
7 月		保護者参観日
8 月		個人面談
10 月	神奈川県社会福祉協議会主催の 新任職員研修	運動会
11 月	藤沢市保健所配信のノロウイル ス研修動画の視聴	さつま芋掘り 保護者参観日
12 月		お楽しみ週間
1 月		餅つき週間 新入園面談 個人面談
2 月	感染症にまつわる研修（実地）	
3 月		卒園式

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢南地域福祉部門内会議	毎週木曜日	
太陽の家運営会議	毎月最終水曜日	
職員会議	毎月第4木曜日	
身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会	毎月第3月曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	127件	1件
2023年度	259件	0件
2022年度	183件	7件

※藤沢市太陽の家しいの実と合計数

2024年度 藤沢市太陽の家藤の実学園事業報告

1 年度総括

2024年度の年度方針として、「利用者が自己選択と自己決定のなかで日中活動が送れるように、個々の障害特性に応じた支援を行う。そして、強度行動障害支援者研修や自閉症などの研修を積極的に受講し、専門性に基づいた上質な支援をめざす。また、新型コロナウイルス感染症発生以降実施している感染症等予防対策を今後も行い、利用者と職員の安全を確保する。さらに変化するその時々の情勢に対し柔軟且つ適切に対応していくことで、休業することなく利用者を受け入れていく。」ことを挙げて事業を行ってきました。

新規利用者の確保においては、各教育機関や保護者に対して積極的に説明会や見学を実施したことにより2人の新規利用者の契約に繋げました。

利用者支援においては、利用者がより自分らしく、自己選択、自己決定のもと日中活動が送れるよう、それぞれの障害特性に応じた支援を展開してきており、そのために必要な環境整備、支援に係わる研修、特に強度行動障害者支援者研修（行動援護従業者含む）に7名受講させるなど、職員の専門性の向上に努めました。

2 実施事業

(1) 生活介護事業（障害者総合支援法）

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 藤の実学園から就労支援施設へ新たな進路ルートの確立及び役割として取り組むことで新規利用者2名を確保できました。
- ② 支援に対する基本姿勢を法人の倫理規程に従って、毎月1回人権擁護と虐待防止委員会を開催しました。
- ③ 日頃の支援に対する意識・行動を自己確認する「支援者調査シート」を2か月毎に実施し、人権擁護意識の維持・向上を図りました。
- ④ ヒヤリハットレポートの提出を毎月40件以上の目標として、職員会議等で情報を共有して、安心、安全なサービス提供に努めました。
- ⑤ 利用者懇談会を年間2回、家族懇談会を年間3回実施し、それぞれのご家族の意見をくみ取りながら支援の向上を図りました。
- ⑥ 利用者ご家族の高齢化にともない、安心して地域生活ができるよう、新しい住まいの場の検討と具現化を進めることはできませんでした。
- ⑦ 嘱託医、看護師等と連携しながら、個々の障害特性に応じた支援を行いました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 福祉人材の育成として、社会福祉士、介護福祉士、保育士等の各種実習について積極的に受け入れました。
- ② 法人ホームページの更新を毎月2回以上行い、学園の活動を広く知ってもらうことで地域の理解がより得られるように努めました。
- ③ 外部講師を招き、地域における公益的な取り組みの推進はできませんでした。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 一つのチームとして取り組める様、日々のコミュニケーションを重視し、グループ等の会議や職場の環境整備、職員交流を積極的に行うことで職員間の繋がりを深めるよう努めました。
- ② 新任職員に対してチームリーダー職を育成担当として配置し、フォローアップを行うことで、人材の定着、育成を図りました。
- ③ ワークライフバランスに配慮した取り組みとして、デスク業務や登園・降園時の対応業務などスリム化が必要な業務を職員会議等で協議、改善を図り、定時での出退勤に繋げました。
- ④ 常勤、非常勤職員共に、管理職による個人面談を実施し、職員会議等では発言しにくい意見や提案を吸い上げ、風通しの良い職場風土づくりに努めました。

4 数値実績

2025年3月31日現在

生活介護事業	
利用定員	60人
利用登録者数	62人
利用者延数	11,654人（1日平均利用者数47.0人）
稼働延日数	248日
稼働率	78.3%
職員数	常勤22人（管理者・サービス管理責任者含む）非常勤11人
常勤換算数	32.3人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

月	行事等	研修等
4月	家族懇談会①、ハイキング週間	新任職員研修、事業継続計画研修
5月	春のバス旅行	
6月	太陽の家まつり、各班小旅行	人権・虐待防止研修、強度行動障害支援

		者養成研修
7月	園庭プール	階層別研修、中堅職員合同交流研修、サービス管理責任者補足研修、行動援護従事者養成研修
8月	園庭プール	サービス管理責任者基礎研修
9月	利用者懇談会①	
10月	運動会、家族懇談会②、一泊旅行	アンガーマネジメント研修
11月		強度行動障害支援者養成研修
12月	お楽しみ会	アンガーマネジメント研修、強度行動障害支援者養成研修
1月	成人の集い	サービス管理責任者補足研修、サービス管理責任者実践研修
2月		アンガーマネジメント研修、強度行動障害支援者養成研修
3月	駅伝大会、家族懇談会③ 利用者懇談会②	感染症研修

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
藤沢市との連絡調整会議	偶数月第3水曜日	
太陽の家運営会議	毎月最終水曜日	
藤の実学園学園運営会議	毎月第4月曜日	
虐待防止委員会	毎月第4月曜日	
職員会議	毎月第4木曜日	
グループ会議	毎月各1回	生活・活動グループ
個別支援計画検討会	8月	7・8月面談、9月契約
モニタリング会議	2月	3月報告
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	
藤沢南地域福祉部衛生推進委員会	毎月第2火曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	395件	5件
2023年度	472件	1件
2022年度	606件	0件

2024年度 放課後等デイサービス太陽の家事業報告

1 年度総括

2024年度は、感染症による影響を受けることなく年間を通し休まずに開所ができ、ほっとスペース、どんぐり共に安定した児童の受け入れができました。

また、「クリーン活動」や「農作業」では、小・中・高校生が一緒になって、交流をしながら地域でのごみ拾いを行い地域貢献ができ、職員間の組織力の向上にもつながる年度となりました。

2 実施事業

(1) 放課後等デイサービス事業（単位1ほっとスペース・単位2どんぐり）

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 衛生推進委員会で取り上げられた感染予防対策を軸に職員と利用児童の健康管理に取り組みました。
- ② 職員間での支援の方向性や統一した支援を目指すため、定期的な会議及び職員主体の研修を実施しました。また、強度行動障害など特性の強い児童の受け入れを行いました。
- ③ 児童の自己選択・自己実現ができるようにするために、保護者や教育機関、他事業所と連携を行いました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 年12回程のクリーン活動を目指し、小・中・高校生の枠を超えて交流する機会を設け、地域へ貢献でき大人も児童も一体感を感じることができました。また、クリーン活動体験を通して地域の方々に児童自ら挨拶ができるようになり、放課後等デイサービス太陽の家のアピールが出来ました。
- ② 活動の様子をほっとスペース、どんぐり共に月1回程度ホームページに掲載しました。
- ③ 公共施設などを利用し、施設外学習の場を設けることができました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 看護学生や生活介護事業所実習生を受け入れました。
- ② 職員に隔月で支援調査シートを記入してもらい、職員のメンタルヘルス及び

適性検査を実施した後に、それらの結果を受けて管理職と面談を行って、メンタルの傾向と予防に努めました。

4 数値実績

2025年3月31日現在

	ほっとスペース	どんぐり
利用定員	10人	10人
利用登録者数	34人	31人
利用者延人数	2,331人	2,264人
利用延日数	247日	247日
利用率（年間）	94%	92%
職員数	常勤8人（管理者・児童発達支援管理責任者含む）非常勤1人	
常勤換算数	8.5人	

5 年間行事（法人全体研修・法人行事等を除く）

月	研修等	行事等
4月	職員研修「イキイキチャレンジ活動」	
5月	職員研修「障害特性」	農作業、鯉のぼり制作
6月	職員研修「グループワーク：自分を知り、お互いを知る」	染め物体験、あじさい制作
7月		すいか割り、外出行事、手作り水族館
8月		かき氷、縁日遊び、水遊び
9月	職員研修「楽しい活動を行う為の工夫」	クリーン活動（江の島海岸へ）
10月	職員研修「嘔吐処理」	ハロウィンイベント
11月	職員研修「個人情報の取り扱い」	さつま芋収穫祭、焼き芋、運動会
12月	消防意識向上 KYT グループ研修	クリスマス制作、クリスマスイベント
1月	職員研修「てんかん発作時の座薬の入れ方」	正月初詣、正月遊び
2月	職員研修「ヒヤリハット」	節分イベント
3月		合同お花見イベント、お別れ会

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
どんぐり会議	毎週第2月曜日	どんぐり職員
ほっとスペース会議	毎週第2金曜日	ほっとスペース職員
放ディ運営会議	毎月第3木曜日	全職員
モニタリング研修（前期）	6月	利用児童全員対象
個別支援計画検討会議（前期）	8月	利用児童全員対象
モニタリング会議（後期）	12月	利用児童全員対象
個別支援計画検討会議（後期）	2月	利用児童全員対象
藤沢南地域福祉部部門内会議	毎週木曜日	部長以上

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	282件	0件
2023年度	412件	0件
2022年度	347件	0件

2024年度 磯子地域福祉部事業報告

1 年度総括

地域における多種多様な課題を分析し、当部が運営する各事業の体制を整え、様々な関係機関と連携しながら地域の障害児者とその家族の安心と安全に資する事業運営を行いました。

職員がやりがいを持って職務に励むことができるよう、安心感のある風通しの良い職場環境づくりと、事業所内外の研修機会を設けることで必要な場面で適切に能力を発揮できる人材の育成に努めました。

2 実施事業

- (1) 横浜市社会福祉法人型障害者地域活動ホーム
 - ・地域活動ホーム運営費補助事業（生活支援事業・地域交流事業・区連携事業）
 - ・障害福祉サービス（特定・一般相談支援、生活介護、地域活動支援センター事業デイサービス型）
- (2) 磯子区基幹相談支援センター
- (3) 障害者自立生活アシスタント
- (4) 磯子区障害者後見的支援室「コネクト・ハート」
- (5) グループホーム いぶきの家（共同生活援助）

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢

- ① 障害者地域活動ホーム

障害児者とその家族が希望する地域生活を安定的に送ることができるよう、利用者個々に合わせた丁寧な評価に基づく支援を組織的・計画的に提供することを心掛けていぶきの各事業がそれぞれの支援力を発揮することに努めました。

- ② 日中活動（生活介護、地域活動支援センターデイサービス型）

障害特性に合わせた質の高い支援を提供するために、グループ調整や配置換えについて定期的な確認と検討を進め、所属グループの異動を実施しました（2024年度1名、2025年度開始時1名）。

初めての試みとして運動会イベントを企画し、横浜市磯子スポーツセンター一体育館を会場にして「いぶきスポーツフェスタ」の大会名で開催しました（1月27日）

- ③ 生活支援（一時ケア、ショートステイ）

利用者のニーズに可能な限り応えられるように、区内外の地域活動ホーム等と

連絡を取り合って調整することで、緊急時を含め必要なサービスを提供することに努めました。

④ 余暇活動

利用者が楽しんで参加できる内容を検討し、季節感も大切にした企画（例：夏は花火、冬はクリスマスイルミネーション等）を6～3月までに12回実施し、楽しんでいただくことができました。

⑤ おもちゃ文庫

利用されるお子さんが楽しめるよう適宜おもちゃの入れ替えを行い、飽きのこないおもちゃ文庫作りを行いました。また、子育てに関する交流や相談の場として地域から更に期待される運営を心掛けました。

⑥ 基幹相談支援センター

ア　自立支援協議会代表者会（6月）にて緊急ケースを事例に上げ、緊急時にどのような対応ができたか、どのような地域の支援があると良いか等、グループワークを行い関係者間で理解を深めることができました。

3機関定例カンファレンスで地域生活支援拠点の整備について振り返り、どの支援にも繋がっていない方への支援の足がかりとして「50歳以上の愛の手帳所持者でサービス利用のない方」（28名）を対象に手紙を送りました。8名から返送があり、区役所と基幹で訪問し面談につなげることができました。

イ　区内の計画相談事業所への支援として、上半期は7事業所、下半期は4事業所を訪問しました。運営状況や支援中の困りごと等意見交換を行うと共に、支援のポイントについて考える機会として個別ケースの事例検討を行いました。

⑦ 計画相談

切れ目なく計画相談を担える人材育成をするため、10月より日中活動との兼務で週2日の相談支援専門員を増員しました。業務全体の流れなどを把握することを経た上で少しずつ新規ケースの受け持つなど、業務への習熟度を高める育成に力を入れました。

また、多様な相談に対応することができることを目的に、法人内相談部門で事例検討会を実施する等、相談員のスキルアップに努めました。

⑧ 後見的支援事業

登録者とあんしんキーパーの交流の場として「つどう会」を11月30日に開催し、30名の参加があり、登録者とご家族、関係者間の意見交換を盛況に行うことができました。また事業活動を広く周知することを目的に、広報誌を年2回発行し、区連携事業等の企画やいぶきまつりにおいて広報活動を行いました。今年度は12名の新規登録者があり、登録者総数は117名となりました。

⑨ 自立生活アシスタント

あらためて個別の支援状況を見直し、支援体制の充実や後見人等から十分なフ

オローが受けられるケースについては終結も視野に入れて事業活動を進めました。人材育成として「ひきこもり」「障害者の地域生活」等をテーマにした研修会や自己勉強会への参加などに努めました。退職に伴う担当職員の途中交代もありましたが、スムーズな人材確保に努め、業務に支障なく支援継続が図れました。事業全体で登録ケース 21 名、相談中 8 名、アウトリーチ 4 名の支援をすることができました。

⑩ グループホームいぶきの家

個別支援計画の作成では、面談時に利用者本人も同席の上、丁寧に意思を確認することを心掛けました。また意思の表出や決定が困難な利用者に対しては、本人とともにご家族の意見や支援時の様子を鑑みた計画作成を行いました。なお、職員の更なる支援力向上を目的に「意思決定支援」「障害者虐待防止」等、権利擁護に関する研修に出席しました。

生活における危機管理の取組みでは、地域連合自治会の防災訓練に参加しました。いぶきの家から一時避難場所への行程を職員 2 名が利用者とともに移動し、所要時間や車いす通行の可否などの確認を行い災害時の備えとしました。

⑪ 事故低減活動

毎月安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット報告・事故報告、職場環境パトロール等の取り組みについて評価を行いました。見過ごしていたリスクへの気づきをもとにした改善を図る活動を進めましたが、事故件数の減少にはつながらず、次年度への継続課題としました。

⑫ 防災・災害関係

これまで積み上げてきた防災・災害関連の計画に近年の災害事例や地域の実情を検討に加えることで、実効性のある防災対策となるように心掛けました。避難訓練では日中活動での火災想定（8月）と、生活支援中の夜間想定（3月）を実施しました。

義務化となった事業継続計画（B C P）について、定期的な確認や職員研修を行い、部内全体の共有に努めました。

⑬ 区連携事業

いぶきの各事業から担当職員を任命し、部内全体で取り組む事業であることを前面に出した企画運営を行いました。

- ・当事者・家族向け：「美と健康」（10月・36名参加）
- ・支援者向け：「支援者交流会」（11月・20名参加）
- ・地域向け：「地域防災セミナー」（2月・102名参加）

地域課題に対する解決力を高めるとともに、地域を基盤とする包括的支援体制の整備につながる取り組みとすることがきました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

① 基幹相談支援センター

地域の障害理解啓発の取組みとして、区内の各地域ケアプラザ（7館）への訪問、地域ケア会議への参加（5回）を行いました。さらに地域福祉計画地区別推進会議（3か所）や民児協会議（2か所）にも参加しました。地域ケアプラザと磯子区社会福祉協議会、生活支援センター、後見的支援室コネクト・ハートとの情報交換会「いそごでつなご」では、地域向けの啓発活動を協働で企画・開催しました。

インフォーマルな資源の開拓としては、市民農園での農作業体験を継続して行い、収穫した作物を地域の子ども食堂に届けることができました。さらには農作業に参加した利用者が、その後福祉サービスに繋がるという結果を残すこともできました。また、障害者の居住支援をテーマにした自主勉強会を横浜市住宅供給公社と協働して3回実施しました（7月・11月・1月）。福祉事業所と不動産事業所が協働できる土台作りを目的に、事例に基づいたグループワークを行うことで居住支援における互いの強みや課題を共有することができました。

② 後見的支援事業

広報誌「こねくとはあと」夏号と冬号をいぶきだよりの配布と合わせて行うこと、関係機関だけでなく地域住民の方にも目を通していただく機会を確保することができました。さらに地域ケアプラザへの訪問、出前講座の実施などの広報活動を行い、登録者数も117名と増やすことができました。

③ 運営委員会

年に3回（7月・12月・3月）開催して、基本的な社会福祉事業への理解と了承を得ることと同時に、地域における公益的な取組につながる双方向の議論を重ねられるような委員会運営に努めることができました。

④ 地域交流事業

障がいの有無を問わず参加できる地域のイベント「すぎたから♡つな5・いぶきまつり」について新杉田地域ケアプラザ、横浜市磯子スポーツセンター、南部地域療育センター、新杉田公園との打ち合わせを毎月行うことで、相互理解を深めながら10月に開催することができました。地元中学校吹奏楽部によるオープニング演奏、開所20周年功労者表彰、和太鼓の演奏、ゴスペルコーラスグループによる歌唱や模擬店販売などの催しを多くの地域住民に楽しんでいただきました。

⑤ ボランティア活動の拡充

障害者支援の意識啓発の為に余暇活動のボランティア募集について広報の検討を行うと共に、実習生・学生等に対してボランティア参加の呼びかけを進めましたが、実績を残すことはできず次年度の課題としました。

⑥ 地域への啓発活動

ホームページに区連携事業、余暇活動、いぶきまつりやチャリティコンサートの

お知らせ等を掲載し地域に発信しました。

5月、いぶき後援会主催研修において「将来の暮らし考えませんか」の表題で相談部門職員が業務紹介および事例発表を行いました。案内チラシを地域自治会回覧板にて各戸回覧していただけたこともあり、多くの地域住民にご参加をいただきました。

その他、区内小学校にて福祉をテーマにした総合的学習授業における講話の実施や市内特別支援学校で構成する横浜PTA連合会主催の研修でも講師として出向して卒業後の障害福祉サービスについて説明を行いました。

⑦ 地域防災

災害弱者への支援における地域との共助意識を育む関係づくりや、事業所の専門性を提供する地域防災体制構築を念頭にした企画に取り組みました。事務局を担っている自立支援協議会主催の防災学習会（10月）では、区内事業所より59名の参加を得て区の保健師による能登半島地震被災地支援の講義を聴き、エリア別に分かれて「同じエリアでどのような連携ができるか」を話し合いました。また、区連携事業では地域住民を対象に駒澤大学川上教授を講師に迎え「地域防災セミナー」（2月）を開催し、多くの参加者と共に地域の防災体制を考える機会となりました。

（3） 福祉人材に対する基本姿勢

① 福祉人材育成研修

新卒者、中途採用者に対する基礎研修（いぶきの概要、相談支援、障害特性、ボディメカニクス、感染症対策など）を行いました。

サービス管理責任者補足研修2名、強度行動障害支援力向上研修2名・実践研修1名、サービス管理責任者基礎研修2名・実践研修2名、相談支援従事者初任者研修1名・現任研修1名の受講を進めました。

② キャリア形成

部内に所属する各事業のチーム力強化のため、職制や経験年数、適性に合わせた研修受講を進めました。6月に現場職員で構成された研修実行委員会による自閉症研修を開催し、グループ担当職員がファシリテーターとなり、グループワークを実施しました。1月には権利擁護研修として虐待防止第3者委員による講義と2024年度の虐待防止チェックリストの取り組みをベースにしたグループワークを行いました。

③ 人材採用・確保

相談職として5月・9月・10月に各1名、支援職として7月・10月に各1名を非常勤職員として採用し、このうち支援職1名を10月、相談職1名を11月に常勤登用することで安定的な事業運営につなげました。

④ 専門学校等実習生受入れ

社会福祉士実習 6 名、保育士実習生 7 名、横浜市立大学医学部実習生 2 名を受け入れしました。他に、区役所の社会福祉士実習生を 1 日体験実習として受け入れました。その内、医学部実習生 1 名 (10 月～)、社会福祉士実習生 1 名 (3 月～) を学生アルバイトとして受け入れました。

4 数値実績

	生活介護	地活デイ	一時ケア	ショートステイ	グループホーム	計画相談	基幹相談 (件数)	後見的支援 (登録者数)	自立生活アシス タン
利用定員	40	10	4	5					
利用延数	9408	280	837	1825		3831			
稼働延日数 (日)	242	242	365	365	365	365	365	365	
稼働率 (%)	97	12	76	100					
登録者数	81	2	1327	5	117		117	21	
職員数	常勤 28 名 (管理者サビ管含む) 非常勤 17 名				3	6	5	2	
常勤換算数	34.5	1.2		4.3	1.7	6	3.7	2	

5 年間行事 (法人全体研修・行事等を除く)

実施月	研修	行事等
4	新人職員研修、身体介護研修	
5		いぶき後援会総会・講演会
6	自閉症研修	
8	BCP (業務継続計画) 研修	
9	事例検討会	
10		すぎたから♡つな 5 いぶきまつり
11	感染症防止研修	
1	権利擁護研修	
2		いぶき後援会チャリティーコンサート
3	個人情報保護研修 (相談部門)	

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催月	備考
職員会議	毎月第3土曜日	6・2・3月は無し
役職会議	毎月第2・4木曜日	
磯子地域福祉部衛生委員会	毎月第1木曜日	
磯子地域福祉部虐待防止委員会	毎月第2火曜日	

7 ヒヤリハット・事故報告

年度	ヒヤリハットレポート件数	事故件数
2024年度	183件	1件
2023年度	184件	1件
2022年度	260件	1件

2024年度 総合相談支援センター事業報告

1 年度総括

藤沢市の「重層的支援体制整備事業」における、包括的相談支援機関として機能できるよう、ネットワークの強化と相談支援スキルの向上を目標に掲げ、事業運営を行いました。通常業務においては、様々な関係機関やインフォーマル社会資源と協働し、チームアプローチを意識することで、ネットワークを強化しました。また、相談部門内での事例検討会の開催や出張相談の対応、研修講師の受諾などを通じ、職員のスキルアップを図りました。

11月には、藤沢市からの委託を受け、発達障害者の専門相談支援事業所である「発達相談支援センターにじのわ」の開設準備室を設置し、市内の発達障害に対する地域支援体制整備を進めることとなりました。また、準備を行う中で、藤沢市からの提案に基づき、2025年度から公益財団法人藤沢市まちづくり協会ビルの2階に障害者相談支援部署を移設、集約することになりました。

2 実施事業

- (1) 北部障がい者地域相談支援事業所・藤沢障がい者生活支援センターかわうそ（以下「かわうそ」）
障害者相談支援事業、計画相談支援事業、障害児相談支援事業、指定一般相談支援事業、藤沢市心のバリアフリー推進事業
- (2) 藤沢市高次脳機能障がい者相談支援事業所チャレンジⅡ（以下「チャレンジⅡ」）
障害者相談支援事業
- (3) 藤沢市湘南台地域包括支援センター（以下「包括」）
総合相談支援事業、介護予防ケアマネジメント事業、権利擁護事業、包括的継続的ケアマネジメント支援事業、介護予防教室
- (4) 藤沢市発達相談支援センターにじのわ（以下「にじのわ」）
障害者相談支援事業、事業所及び支援者に対するコンサルテーション

3 事業報告

- (1) 支援に対する基本姿勢
 - ① 相談支援に関する基礎的な研修を全職員が受講し、基本に立ち返る機会を設けました。引き続き、利用者の相談を受け止め、適切なアセスメントを行うことで、利用者の課題解決や目標達成に向けて相談支援を実施しました。（共通）
 - ② 湘南台文化センター内の北部福祉総合相談室、外国人相談室、市民センター、藤沢市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーなどと連携し、複雑な課

題を抱える利用者及びその家族の相談に応じました。(かわうそ・包括)

- ③ 当事者向け・家族向け日中活動を毎月各 1 回ずつ開催しました。前年度と比較して当事者・家族どちらも参加者が増加しました。フリートークのほか、家族向けでは勉強会を実施し、当事者向けでは外出行事等を通じて相互の親睦を深めました。(チャレンジⅡ)
- ④ 2024 年度当初 102 名を担当しており、105 名を目標としていましたが、亡くなつた方、介護保険制度へ移行した方がおり、最終的には 100 名となりました。一方で、モニタリングの頻度を増やし、利用者の状況把握と信頼関係の構築に努めました。(かわうそ)
- ⑤ 近隣住民をはじめとして、市民センター福祉窓口や警察、各種商業施設、病院などの機関からの相談を幅広く受け付け、制度横断的に関係機関と連携しながら相談支援を行いました。(包括)
- ⑥ 藤沢市北部の他の地域包括支援センターと連携し[北部在宅介護者の会]を年 4 回開催したほか、スターバックスコーヒー湘南台イトーヨーカドー店との共同企画で認知症カフェ(愛称「キュンカフェ」)を 3 月に開催し、介護者の支援とネットワークの構築に努めました。(包括)
- ⑦ 消費者被害ニュースや見守りチラシを定期的に地域住民や商業施設などに配布し、地域高齢者の権利擁護に努めました。(包括)
- ⑧ 藤沢市における発達障害支援体制整備をさらに推進するため、開設準備室を発足しました。藤沢市障がい者支援課、及び藤沢市発達障がい相談支援事業所リートと連携しながら、藤沢市内の事業所支援ニーズの把握及び相談支援体制の役割分担について協議しました。(にじのわ)

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 1 月の心のバリアフリー講習会は、「高次脳機能障害」をテーマに開催しました。講義の他、当事者と家族に登壇して頂き、経験談を話して頂くことで、見た目ではわかりにくい高次脳機能障害について、わかりやすく理解を広めることができました。(チャレンジⅡ)
- ② 湘南台地区の民生委員児童委員連絡協議会には包括職員が参加し、御所見地区の協議体にはかわうそ職員が参加するなどして、地域課題を解決するためのネットワークづくりに努めました。(共通)
- ③ 居宅介護支援事業所、障害福祉サービス事業所、介護保険サービス事業所、地域包括支援センター、福祉窓口、医療機関等 13ヶ所へあいさつ回りを実施しました。一部の機関からケースの相談が寄せられる等、チャレンジⅡの認知度が高まり、協働できる関係機関を増やすことができました。(チャレンジⅡ)
- ④ 9 月と 2 月に事例検討会を開催しました。メディカルソーシャルワーカーやケア

マネジャー、ホームヘルパー等、多様な職種の方が参加され、ネットワークの広がりが感じられました。また、事例検討会参加者から相談が寄せられ、多機関連携による支援へ繋がるなど、関係機関との連携が進みました。(チャレンジⅡ)

- ⑤ 今年度は出張講座を3回実施しました。前年度依頼のあった事業所より、テーマを変えて再度依頼をしたいとの要望を頂くなど、地域の支援者の高次脳機能障害者支援への関心を高めることができました。また、出張講座を機会に、ケースの相談等が寄せられるようになりました。(チャレンジⅡ)
- ⑥ 湘南台地区の協議体(湘南台いきいき会議)に年5回参加し、協議体主体で認知症普及啓発に関する研修を開催できるよう側面的な支援を行いました。また、包括が主体となり地域の郵便局にて認知症講座を開催するなど普及啓発に努めました。(包括)
- ⑦ 「見守りチラシ」を地域に配布し、地域の方々が参画しやすい地域包括ケアシステムつくりに向けて活動しました。特に、今年度は地域の薬局に集中的に配布し協力を求めました。(包括)
- ⑧ 地域ケア会議では、認知症の事例を選定し、会議の内容を湘南台地区協議体(湘南台いきいき会議)に報告することで、協議体が取り組んでいる認知症理解の普及啓発活動の一助となるよう努めました。(包括)
- ⑨ 藤沢市内の保護者会(藤沢やまびこ会)、及び福祉事業所、教育機関、医療機関と連携して、市内全域の事業所支援ニーズを掌握し、各地域資源のネットワーク構築を目指した研修・啓発事業を企画しました。(にじのわ)

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 総合相談支援センター職員への研修として、講師を招き、相談や傾聴の基本を学ぶ機会を設けました。(共通)
- ② 朝礼をはじめ、各種会議などにおいて、対応に苦慮している利用者及びその家族について情報共有し、役割分担を行うことで、一人の職員が心理的な負担を抱え込まないようなチームワークの構築に努めました。(共通)
- ③ ワークライフバランスを重視し、定時退社の励行を継続しました。やむを得ず就労時間が超過する場合は変形労働制にて、月内に超過分を消化できるよう調整しました。(共通)

4 数値実績

	委託相談 (かわうそ)	委託相談 (チャレンジⅡ)	計画相談 (かわうそ)
給付管理実績			344 件
契約者(目標)			100名(105名)

稼働延日数	255 日	255 日	255 日			
延べ相談件数	2,867 件	1623 件				
職員配置人数 (予算人員)	2 人	2 人	2 人			
常勤換算数	2 人	1.5 人	1.5 人			
湘南台地域包括 支援センター	藤沢市包 括的支援 事業	介護予防支援事業		介護予防支 援事業（元 気サロン）		
		総数	包括プラン			
給付管理実績		1,899 件	931 件	1,989 件	1,213 件	23 回
延べ相談件数		1,101 件				
稼働延日数		255 日				
職員配置人数（予算人員）		6 人				
常勤換算数		5.5 人				

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
5 月	御所見地域勉強会	
6 月	出張講座（チャレンジⅡ） (やさしい手、ケアポート湘南、若 林会合同研修)	
7 月	藤沢市心のバリアフリー講習会 地域ケア会議 神奈川県高次脳機能障害支援ネット ワーク連絡会（チャレンジⅡ）	家族向け日中活動（チャレンジⅡ） (勉強会「生活の中のリハビリテーシ ョン」)
8 月		当事者向け日中活動（チャレンジⅡ） (レクリエーション「ゲーム大会」) 家族向け日中活動（チャレンジⅡ） (湘南台地区での開催)
9 月	ケアマネサロン 藤沢市心のバリアフリー講習会 御所見地域勉強会 事例検討会（チャレンジⅡ）	
10 月	出張講座（チャレンジⅡ） (失語症会話カフェ講演会)	湘南台まつり 家族向け日中活動（チャレンジⅡ） (施設見学「グループホーム詩」)

11月	出張講座（チャレンジⅡ） (ケアパーク湘南台・ミモザ藤沢合 同研修) 出張講座（チャレンジⅡ） (ナナの会リハビリテーション講習 会講師)	公園体操大会 当事者向け日中活動（チャレンジⅡ） (外出行事「新江ノ島水族館」)
12月	地域ケア会議 御所見地域勉強会	
1月	ケアマネサロン 藤沢市心のバリアフリー講習会 神奈川県高次脳機能障害支援ネット ワーク連絡会（チャレンジⅡ） 神奈川県高次脳機能障害相談支援体 制連携調整委員会（チャレンジⅡ）	家族向け日中活動（チャレンジⅡ） (講演会「怒りっぽくなつた!?」理由と 接し方のヒント)
2月	地域ケア会議 事例検討会（チャレンジⅡ）	
3月	ケアマネサロン 御所見地域勉強会	

6 主な会議等

会議名等	開催日	備考
合同部長会議	毎月最終月曜日	藤沢北地域福祉部・在宅 福祉部と合同開催
総合相談支援センター会議	毎月 1 回	課長補佐以上
包括職員会議	毎月 1 回	
支援センター会議	毎月 1 回	
虐待防止委員会	毎月 1 回	

7 行政への事故報告

年度	事故件数
2024 年度	0 件
2023 年度	0 件
2022 年度	0 件

※事故件数の記載については、行政への報告のみ記載してください。

2024年度 障がい福祉センターひかり一時預かり事業報告

1 年度総括

藤沢市内の障害児者が安心して生活するため、家族のレスパイト又は緊急時の地域資源として、年間24名の医療的ケアの必要な障害児の受け入れと3名の緊急受け入れを行いました。

また、藤沢市障がい者支援課・こども家庭センターと連携を強化し、昨年度より延べ人数が98名の利用人数増に繋がりました。

2 実施事業

(1) 藤沢市障がい児者一時預かり事業

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

- ① 家族のレスパイト、本人の社会経験を目的にした医療的ケアのある障害児を年間で24名の受け入れを行いました。
- ② 緊急の案件に対して、3名の受け入れを行いました。
- ③ 安心して利用していただくため、利用時には必ず手指消毒を行い、感染対策に協力していただきました。
- ④ 利用者満足度アンケートを年1回行い、100%の満足度「良い」評価を受けました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 祝祭日や休日についても保護者のレスパイト的な利用がしやすいように職員体制を構築しました。
- ② 地域にある湘南シークロス商店会の総会に参加させていただきました。また、タカギビルの合同避難訓練に参加させていただくことで地域交流を推進し住民や各種機関との関係性をより深めていくことができました。
- ③ 法人ホームページの更新を毎月1回以上行い、利用されている時の様子など、最新の情報発信を地域に行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 奇数月に職員に対する支援者調査シートを行い、利用児童の人権、虐待の意識向上に努めました。また、3回目の調査の際、変化についての動向を見える化し、職員に周知しました。

- ② ヒヤリハットの振り返りと再発防止について、虐待防止委員会の中で話し合いと定期的な危険予知トレーニングを行った事で、県報告の事故は0件でした。
- ③ 利用者支援の中で3事業所が協力して3S活動する事で、視覚から入る情報を減少させ安心して利用者が利用できる環境整備を行いました。

4 数値目標

ひかり一時預かり事業	
利用定員	5人
利用登録者数	282人
稼働者延数	949人
稼働延日数	313日
稼働率	61%
職員数	常勤2人（管理者含む）非常勤1人
常勤換算数	2.8人

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	訓練・設備点検等	研修
5月	エレベーター点検	支援者調査シート
7月		支援者調査シート
8月	避難訓練(火災想定・消火器訓練)	
9月		支援者調査シート（総評）
11月		支援者調査シート
12月	ビル窓清掃	
1月		支援者調査シート
2月	避難訓練（地震想定）	
3月		支援者調査シート（総評）

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
ひかり運営会議	毎月第4金曜日	
ひかり虐待防止委員会	毎月第4金曜日	
三部署合同部長会議	毎月1回	藤沢北地域福祉部、在宅福祉部、相談・地域医療部の合同会議

7 ヒヤリハット・事故報告

年 度	ヒヤリハットレポート数	事故報告
2024 年度	109 件	0 件
2023 年度	108 件	0 件
2022 年度	108 件	0 件

2024年度 おそごうこころのクリニック事業報告

1 年度総括

「おそごうこころのクリニック」は、発達障害者等への総合的・包括的な支援体制の構築に向けて設置した「湘南希望の郷医務室機能強化プロジェクト」による検討、準備を経て、発達障害の方々を対象に専門的に診療等を行う診療所として、2024年7月に開院し運営してまいりました。

2 実施事業

診療所事業

- (1) 所在地 神奈川県藤沢市瀬郷 1003 番地
- (2) 名称 おそごうこころのクリニック
- (3) 診療科目 精神科、内科

※心理検査、心理療法及び訪問看護を行い、状況等に応じて往診も実施しました。

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

患者様の人権尊重と安心できる医療の提供、地域に根差した医療活動を目標に掲げ、法人内各事業所の利用者をはじめ、地域のニーズに応えるために、専門的な検査、診断、治療を通じて、質の高い医療・看護サービスを提供しました。

また、患者様の利便性を考慮し、送迎サービスを開始しました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

複合化・複雑化する地域生活課題に対応するために、社会福祉法人の強みを活かし、また医療の専門性を発揮しつつ「地域とのつながり」を重視した、包括的な支援体制の一翼を担えるよう、広い視野を持って地域福祉を推進いたしました。

(3) 人材に対する基本姿勢

- ① 人材の育成に向けた取組として、医療事務員への研修及びコメディカルスタッフの専門性向上のための研修を行いました。
- ② 人材の確保・定着に向けた取組として、専門職がやりがいを持って従事できる魅力ある職場環境を念頭に、人材の確保を行い、ワークライフバランスを重視し効率的な事務処理を励行しました。

4 数値実績

	精神科	心理検査	内科
患者人数	27人/日	—	6人/日
患者延数	3,698人	52人	131人
稼働延日数	137日	—	22日
人員配置	医師2人（精神保健指定医専従、総合診療医非常勤） 看護師1人（専従） 医療事務員2人（2人専従） 公認心理師1人（兼務） 精神保健福祉士1人（兼務） 運転手1人（非常勤）		
職員数	8人		

5 年間行事（法人全体研修・行事等を除く）

	研修等	行事等
12月	MSPA講習会	

6 主な会議等（法人全体会議を除く）

会議名等	開催日	備考
合同部長会議	毎月最終月曜日	藤沢北地域福祉部、在宅福祉部との合同開催
部内会議	毎月1回	

2024 年度 収益事業部事業報告

1 年度総括

収益事業部は、「中期経営計画 2025」「農福連携事業計画 2021 年度～2030 年度」に基づき 2024 年度からワインの生産作業については就労福祉部が行いました。原料となる葡萄を収益事業部が購入しました。このような形式で利用者の工賃向上に繋げて行きました。

一方、販売先の開拓については収益事業部・ハートフルプロダクトが担い、今後の収益増加に繋げて行く足掛かりができました。また、2026 年度開所予定「新規就労継続支援 B 型事業所」の開設に向けたプロジェクトチームに参画し、具体的な取り組みを就労福祉部のメンバーと検討いたしました。

「光友会事業サポートサービスセンター (K S S)」については、65 歳以上の高齢者の人材活用により各事業所内の作業種による人手不足解消を踏まえた人材配置を進めました。

2 実施事業

(1) ハートフルプロダクト

① 「ブドウ育成」及び「ワイン造り」、「酒類販売」のための就労福祉部との連携による企画検討

② 独自事業

就労生産事業の市場の開拓及び営業拡大

新規商品企画からの販売促進

③ 空きスペースの貸し出し

(2) 光友会事業サポートサービスセンター (K S S)

① 高齢者 (65 歳以上) の人材活用と人材確保

3 事業報告

(1) 支援に対する基本姿勢

① 第 1 圃場における木酢液散布・草刈り・害虫駆除・傘かけ等行い 9 月 4 日 (水) に「ブドウ収穫祭」を行い、105 kg 収穫してフルボトルで 75 本確保しました。

なお、販売については、ライフ湘南が酒類販売許可を取得し、完売いたしました。

③ 地域のニーズに合った市場を開拓、就労支援サービス (営業) と連携し、慶應義塾大学看護医療学部販路拡充・おすそ分けマルシェ実行委員会連携等、販売網を拡充・拡大しました。そのことにより、就労福祉部の利用者への工賃向上につなげることができました。

(2) 地域社会に対する基本姿勢

- ① 地域の農業放棄地の確保に向けた調査により、2023 年度は、4,100 m²を近隣農家の方から借入し、2024 年度は新たに 2,500 m²を賃貸契約しブドウ・野菜・米の栽培面積を拡大し、地域社会共生に繋げました。
- ② ノウフク通信 2024 を発行し、職員、利用者の作業(ブドウつる除去作業・傘かけ作業・田植え・稲の収穫作業・ユニバーサル農園等)を通じて地域とのコミュニケーションを図り、地域ニーズに合った市場を開拓し販路拡充・拡大に向け市場調査・営業活動(11 月の藤沢ワイン祭りにも配布)を精力的に行いました。

(3) 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 障がい者・高齢者と共に「安心、働きがい、成長」のある働く仕組みや環境をブドウ育成からワイン造りの工程を通じて整備を進めました。ブドウの育成から収穫、醸造(委託)を行いワインの生成まで到達することができました。今年度作業はブドウの圃場も増やし生産力向上に努めました。KSS 人材の働きやすさもヒヤリハット報告、リスクマネジメント報告に着目し、安全面向上に努めました。
- ② 企画力やマネジメント力の向上など従事者の専門性を高めるための就労福祉部との企画会議を進めました。一方、人材基盤の強化を図るとともに、就労福祉部運営会議において情報共有を図りました。「新規事業プロジェクト(仮称)就労支援B型Cafe レストラン」を立ち上げ、将来を見据えて収益事業の観点から専門的な視野を広めました。

4 数値実績

	ハートフルフロタクツ(ブドウ)	ハートフルフロタクツ(独自事業)	KSS
年間売上目標 (単位千円)	240,000 円	240,000 円	人件費相当
職員配置人数 (予算員)	0 人(就労福祉部との兼務 2 人)		
常勤換算数	0 人		

5 主な会議等 (法人全体会議を除く)

会議名等	開催日	備考
企画会議(新規事業事務局会議)	月 2 回	毎月第 2・4 火曜日
就労福祉部部長会議・運営会議	月 2 回	毎月第 2・4 火曜日
営業促進会議	月 1 回	随時
ブドウ・プロジェクト	月 1 回	随時

事故報告・リスクマネジメント報告について

1 光友会で使用している事故報告の種類

(1) 行政（神奈川県、横浜市等）に提出する事故報告

障害者総合支援法及び児童福祉法に基づく施設又は事業所を対象にしたものです。事故の種類は大きく分けて8つ（死亡、骨折、誤嚥、食中毒、感染症、所在不明、利用者の不利益に繋がる職員による犯罪行為等、その他）の規定があります。

(2) 法人内のみで共有する事故報告

(1) には該当しないものの、事故として挙げる必要があると判断し、法人内で共有する形式の事故報告です。ここには職員の負傷や事務的な取り扱いのミスなども含まれます。

(3) 車両に関する事故報告

2 リスクマネジメント活動に関する取組みについて

(1) リスクマネジメント活動

この活動は、「ハインリッヒの法則（注1）」を根拠にしたもので、毎月全事業所のヒヤリハット（注2）の件数・数値評価と、事故件数の集約を行い、その結果を管理職全員に配信しています。

特にヒヤリハットで挙がった事象を分析することで、危険やミスを回避する「気付きの感度」を高める訓練となっています。そのため、ヒヤリハット報告は各事業所において積極的に挙げることを推奨しています（注3）。

(2) 事故内容の共有について

毎月開催する部長会議にて、事故内容の振り返りを行っています。特に行政に報告した事故については、当該事業所長から①事故概要、②事故後の対応、③防止策の3点を中心に報告を行い、再発防止につなげる活動を行いました。スローガンは「人の振り見て我が振り直せ」としています。

*注1：重大事故の裏に潜むヒヤリハットを把握する重要性を説いた法則のこと。

「1（重大事故）:29（軽微な事故）:300（ヒヤリハット）の法則」とも呼ばれます。

*注2：重大な災害や事故に直結する一步手前の出来事のことを指します。思いがけない出来事に「ヒヤリ」としたり、事故寸前のミスに「ハッ」としたりすることが名前の由来です。ヒヤリハットは、事故や災害につながる要因を特定し対策する貴重な機会であり、リスクマネジメントの観点から多くの組織で重要視されています。

*注3：各事業所報告の数値実績欄にヒヤリハットレポート・事故報告（行政提出分）件数を表示していますので、ご参照ください。